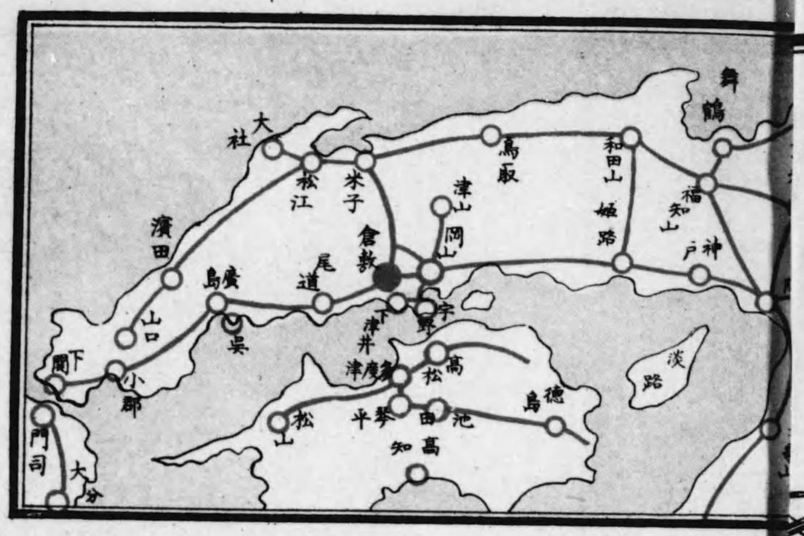
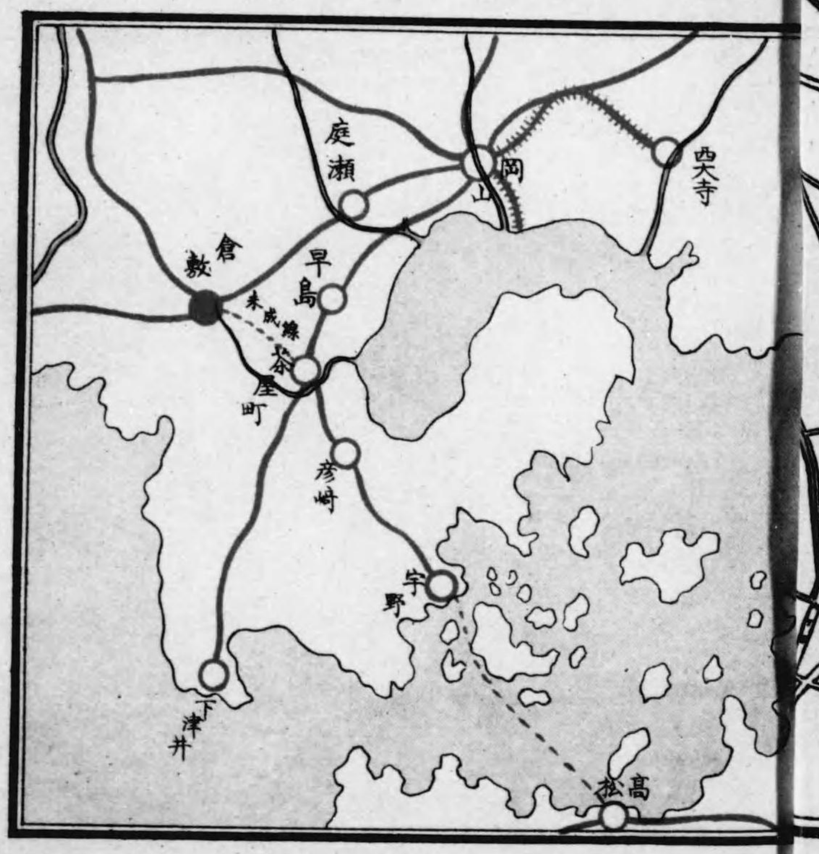
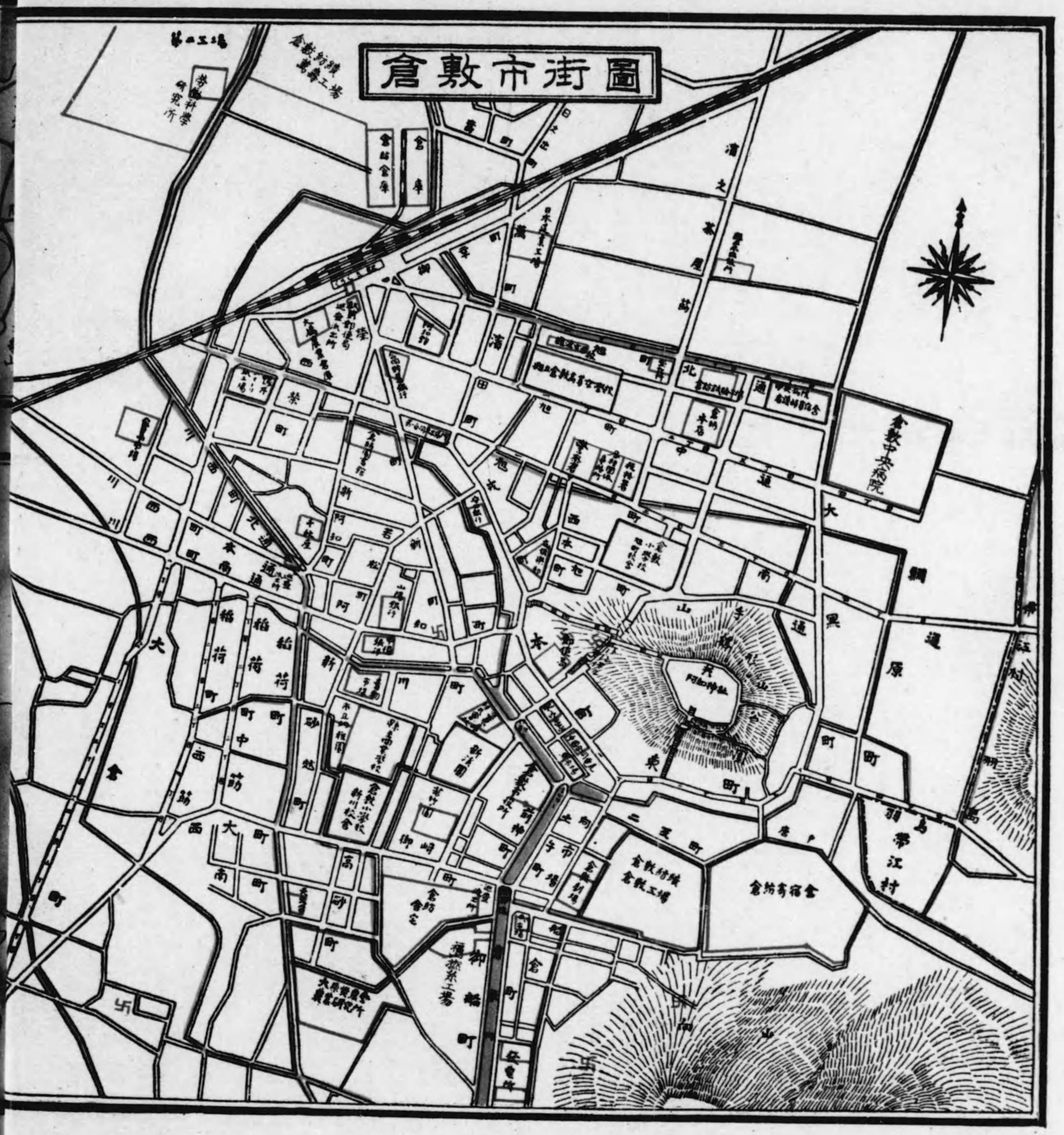
會數市案內

特230
581

始






倉敷市街圖
倉敷紡績
倉敷市立病院
倉敷紡績倉敷工場
倉敷紡績倉敷工場
倉敷紡績倉敷工場

所役市敷倉

鶴形山公園ヨリ舊市街ヲ望ム

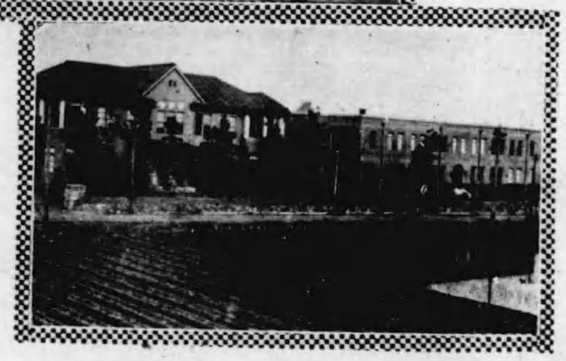
鶴形山公園ヨリ新市街ヲ望ム

大正十五年五月　皇太子殿下行啓又ハ御使御差遣箇所（123行啓　4御使）

1 大原農業研究所

2 倉敷紡績工場

3 倉敷勞働科學研究所



4 倉敷中央病院

原序

我が倉敷市は古來富裕を以て知られた土地であるが、近時産業都市として將た文化都市として、新興の機運ます〳〵旺盛に、昨を以て今を測るべからざる狀勢にある。

本書はこの新興倉敷市の概觀を叙したるに止まり、固より其の群を悉さざるものであるが、本市の現勢を知らんと欲するもの〻、參考の一助ともならば幸である。

昭和三年十一月十日

倉敷市長

改訂版例言

本版に於ける改訂の要旨は左の如くである。

一、現勢をよく詳細にせんがために、舊時に屬する事項を省約した。

一、內容たる事實により記事の繁簡に一層の加減をした。

一、初版發行以後本市來遊諸士案內の實績に徵し編次に多少の變更を加へ、社會的施設の記述を稍詳細にした。

なほ改版を機として、記事統計等すべて出來得るだけ最新のものに改めたことは云ふまでもない

昭和四年四月十五日

編者識

目次

第一章　總說……一

一　沿革……二

阿知潟の海、倉敷の名勝、倉敷代官、當時の文化、維新後の倉敷、東宮行啓

二　現在の倉敷……八

位置、廣袤、地勢、氣候、戶口、衞生、交通、街衢

第二章　倉敷の大觀……一五

一　社會的施設……一五

1大原農業研究所、2倉敷勞働科學研究所、3倉敷中央病院、4倉紡圖書館、5倉敷天文臺、6若竹の園
7新溪園、8教育助成機關、9其他の社會的施設

二　都市施設……五〇

新興の倉敷市、上水道、下水道計畫、道路計畫、都市計畫、鶴形山公園

三　官公署……五六

倉敷警察署、倉敷稅務署、倉敷驛、倉敷郵便局、倉敷驛前郵便局、岡山縣倉敷土木出張所、玉島區裁判所、

倉敷出張所、都窪・倉敷各種團体事務所、倉敷市役所
四　市政一班……六〇
沿革、市政機關、財政
第三章　産業……六五
職業別狀態、生産狀態、倉敷商工會議所、商工業組合、會社、工場、銀行、産業組合、市場、特産品と倉敷名物
第四章　教育……八七
學齡兒童と就學歩合、學校幼稚園、倉敷圖書館、倉商青年講座、實力檢定試驗、修養及教化團体、全國初等教育研究大會
第五章　社寺宗教……九七
一　神社……九八
縣社足高神社、鄕社阿知神社、村社
二　寺院……一〇三
觀龍寺、地藏院、青蓮院、圓福寺、善福寺、大樂院、誓願寺、法然寺、長蓮寺、敎善寺、木榮寺
三　教會……一〇七

神道教會、佛教教會、基督教會
第六章　名勝舊蹟……一〇九
一　名勝……一〇九
新溪園、鶴形山公園、樂山園、鶴形山隧道、今橋、阿知の松
二　舊蹟……一一四
皇大后宮、寺谷、城山、遠州井、代官の墓、岡雲臥、岡鶴汀、岡延年の墓、鐘撞堂、其他
三　附近の名所……一一七
不洗觀音、日間山法輪寺、安養寺の國寶、西岡山御野立所、垂乳根の櫻、連島沖の潮干狩、霞橋、酒津遊園地
第七章　娯樂慰安……一一九
劇場、活動寫眞常設館、撞球場、カフエーと喫茶店、遊廓と檢番、料亭と旅館

挿繪目次

倉敷市役所　口絵
鶴形山公園ヨリ舊市街ヲ望ム　口絵
鶴形山公園ヨリ新市街ヲ望ム　口絵
大原農業研究所、其他倉敷川　口絵
汽車自動車交通略圖　一
本町通　二
大原農業研究所勞農科學研究所研究室ノ一部　三
倉敷中央病院　四
病院患者慰安溫室　五
倉敷天文臺　六
若竹ノ園　七
新溪園　八
鶴形山公園妙鶴亭　九
倉敷驛　一〇
倉紡本店　一一
倉紡倉敷工場　一二
倉紡萬壽工場ノ一部　一三
倉敷絹織工場全景　一四
縣社足高神社　一五
鄕社阿智神社　一六
寶壽山觀龍寺　一七
七山園　一八
鶴形山隧道　一九
今橋　二〇
阿知ノ老松　二一
倉敷劇場　二二
千秋座　二三
壽座　二四
阿知館　二五
戎倶樂部　二六

地圖
倉敷市全圖
倉敷市街圖
倉敷市位置圖
倉敷市附近圖

倉敷市商工人名錄目次

第一類　米穀、雜穀、精米業、製粉、馬糧……一
第二類　酒類、醬油、酢……三
第三類　味噌、漬物、糀、鹽……六
第四類　氷、清涼飲料水……七
第五類　菓子、餅、饅頭、麺麭、煎餅、砂糖、餡……七
第六類　乾物、海產物、八百屋、青物、果物、日用雜品……一一
第七類　麺類、豆腐、蒟蒻……一五
第八類　生魚、牛肉、鷄肉、蒲鉾……一六
第九類　煙草、茶、牛乳、鷄卵……一九
第一〇類　荒物、農具、蠶具……二〇
第一一類　藥種、賣藥、塗染料、蠅取紙……二二
第一二類　陶磁器、漆器、硝子、佛具……二三
第一三類　呉服、洋反物、太物、モスリン……二三

第一四類　糸、製綿、織布、人絹、蒲團、蚊帳、メリヤス、綿布、古着……二六
第一五類　洋服、半物仕立……二八
第一六類　染物、洗濯業……二九
第一七類　和洋雜貨、帽子、洋傘……三〇
第一八類　小間物、化粧品、袋物、玩具、髢、刷毛、手藝材料、進物品……三二
第一九類　和洋家具、建具、嫁入道具、指物、疊……三三
第二〇類　時計、貴金屬、眼鏡……三四
第二一類　金物、鉄工業、鍼力細工、金網……三五
第二二類　提灯、團扇、扇子、傘……三六
第二三類　油、蠟燭……三七
第二四類　炭、薪、石炭、煉炭、炭團、コークス……三七
第二五類　樂器、蓄音機、ラヂオ、電氣器具、電氣業、寫眞業……三八
第二六類　下駄、靴、麻裏、足袋、鞄、行李……三九
第二七類　古道具、骨董品、書畫、表具……四一
第二八類　書籍、文房具、紙、萬年筆、紙袋……四二

第二九類　木材、竹材、石材、製材……四三
第三〇類　自轉車、荷車……四四
第三一類　花莚、上敷、疊表、野草莚……四五
第三二類　木地物細工、竹細工、石細工、製繩、製樽、棒、木管、看板……四六
第三三類　印刷、印判……四七
第三四類　左官材料、煉瓦、セメント、瓦……四八
第三五類　肥料、薄荷、藺草……四八
第三六類　請負業……四九
第三七類　銀行業……五一
第三八類　質、金錢貸付業……五一
第三九類　運送業……五二
第四〇類　周旋業……五三
第四一類　興行……五三
第四二類　公債株式……五四
第四三類　旅館、料理店、飲食店、券番……五四

倉敷市案内

第一章　總說

倉敷は富の倉敷である。市街の中央鶴形山の山頭に鎮座せる阿智神社の社頭に、

富商豪族幾家樓　多是素封十萬侯
偶上山頭似騎鶴　下看吉備小楊洲
倉舗鶴形山　中洲三島穀

の額が掲げられてあるが、これは最もよく倉敷の特色をあらはしたものである。倉敷の土地が倉敷人の所有であるばかりでなく、倉敷人は市外になほ廣大な土地を持つて居り、古來その富力は縣下に冠たるもので家々皆富み、大富豪も世々その跡を絶たない。隨つて倉敷人の事業には他に見られぬ堅實さと底力があり他の都市の商工業が多く資本を他人の懐に仰いでゐるのとは全くその趣を異にして居る。

一　沿　革

阿知潟の海、倉敷の名稱、倉敷代官、倉敷の文化、維新後の倉敷、東宮行啓

阿知潟の海　この富の倉敷も今から約三四百年の昔には一面の海で阿知潟と稱し、現時市街の中核をなせる鶴形山や南部田園の中に峙てる足高山も當時は海中の孤島で、足高山は沖津島とも笹島ともいひ、古くよりこゝに祀れる延喜式式内社足高神社は一名帆下の宮と稱し、宮の下を走る舟は必ず帆を下げて神拜をしたものださうである。また鶴形山（舊稱妙見山）は淺口郡の外龜島（今の連島町大字龜島新田沖島）に對して内龜島と呼び、或は單に龜島または龜居島といつた。島の北浦には鯛の浦といふ浮鯛の名所があつて

春來れば阿知潟の海一かたに　　大江匡房
浮くとふ魚の名こそ惜しけれ　　宗恵

春といへば波にも花の櫻魚の
風に寄りくる阿知潟の海

なごの歌をとゞめてゐる。鯛の浦は開墾せられて「鯛原」となり、道路が通じて「鯛原筋」となり、今は繁華な「戎町」となつた。阿知町は本町と共に古くから市の目拔の場所で、新興市街の鯛原町大黑町もこれにちなんだ稱呼であることはいふまでもない。

倉敷の名稱　鉄道の開けない昔の交通運輸はもつぱら河と海とによつたものであることは今更言ふまでもない。さて備中壹圓をその流域に包含してゐる高梁川は、今の市の上水道水源地の在る酒津から二派に分れ、一つは水江に走り一つは倉敷に流れてゐたので、倉敷は備中南部の要津となり、關東御藏入の米はこの地で津出しをするやうになり、倉庫をこゝに設けられ、藏の敷地であるところから倉敷と呼ばるゝに至つたものである。倉敷川は元和年中新田開發と共に改修せられて運河となつた。

倉敷の文字古くは倉舗或は倉鋪とも書き、倉子城といふ雅字をも用ひた。

倉敷代官　倉敷が古來地方に重きをなしてゐたことに就いて忘れてならないのは此の地が古くから德

川路[illegible]の直轄地であり、代官の所在地であつたことである。

文祿四年松山城主小堀遠江守政一この地を領し、後池田備中守長幸がこれに代つたが、寛永十九年幕府の直轄に歸し、代官米倉平太夫の支配所となつてから、代々代官所として明治維新に及んだ。その間一時諸侯の私領となつたこともあるにはあつたがそれは殆んど言ふに足りない、要するに二百二十七年間謂はゆる「天領倉敷」として特異の發展をつゞけ來つたのである。代官の陣屋は初め笠岡に在つてこゝは出張所であつたが、延享三年に至つてこゝに陣屋を營み、笠岡が出張所になつた。倉敷の支配地備中南部五萬石餘、これに笠岡の支配地を加へ、時に或は所領備後美作讃岐に亘り十數萬石に上つた時もあり、倉敷の富裕と相待つて倉敷代官の地位は代官仲間で羨望の的であつたといふことである。

由來倉敷は金穀に富んで未だ曾て飢謹を知らず。上は大名旗本から下は町人百姓まで、四隣皆資を倉敷に仰いだ譯で、倉敷人はまた「天領」の御威光によつて貸付の回收が極めて容易であつたがために、ますゝその大をなしたことは爭はれない事實である。

此の間に培はれた富力と、理財の能力と、堅實なる氣風とは克く維新の激變に堪へ、時勢に順應して更

に新なる大發展をなさしめたのである。

當時の文化　元祿、享保の頃より文運漸く開け、岡雲臥が黄檜社を興すに及んで詩文益々盛んに、井上素堂夫妻の小澤蘆庵を師として和歌國文を學ぶあり、爾來岡氏、井上氏、吉田氏、小野氏、藤井氏等の名流競ふて文學を修め、文化文政の頃最も其の盛を極め、天保以後に至つて衰へず、隨つて其の間文墨諸名流の來遊するもの亦多く、賴山陽、森田節齊等の尊皇の大義を鼓吹するあり、幕末に於ける倉敷は勤王家の淵叢となり、林孚一（號梧陰）等の如き奔走周旋最も努めたものであつた。又代官古橋新左衛門忠良が鄕校明倫館を興したのは天保五年のことであつた。

なほ特記すべきは民衆學たる心學の隆盛である。心學の祖石田梅巖の來講するや靡然として其の盛を極め、明倫館の傍に、塾舍を設くるに至り、之を自省舍と稱した。其感化大にして地方敎化に多大の影響を及ぼした。

維新後の倉敷　代官所廢止後も倉敷は郡役所、警察署、稅務署等を置かれて依然地方政治の中樞地であつた。

明治二十年七月倉敷紡績株式會社の創設は、倉敷の發展に一大時期を劃したもので、當時はまだ一小邑であつたものが他日全國に其の名を知らるゝ商工都市となる基礎は實にこゝに築かれたのである。同會社は初め倉敷紡績所と稱し、僅かに資本金拾萬圓錘數五千の小規模であつたが、漸次盛大に赴き、明治四十一年には玉島紡績會社を買收し、大正三年には萬壽第一工場を新設し、大正七年には坂出、松山の二工場を併合し、大正七年に萬壽第二工場、大正九年に高松工場を新設し、大正十年に早島紡績會社を併合し、大正十一年に岡山染色整理會社を併合して岡山北方工場とし、大正十三年に日本メリヤス會社枚方工場を買收し、資本金壹千七百貳拾萬圓、工場數十、全國屈指の大會社となつた。市も亦これが爲めに漸次發展を來し、舊倉敷の戸口を見るに、

明治三年	一、六一〇戸	六、四七九人	
大正元年	二、三七九戸	一一、二三〇人	
昭和元年	三、三一七戸	一五、九九三人	

特に萬壽工場新設以後は隣接地域萬壽大高兩村に向つて市勢頓に擴張し、全地域に於て

大正元年	三、九二三戸	一九、一〇一人
昭和元年	六、〇一二戸	二九、八二七人

昭和二年には戸數六千百三十二、人口三萬四百七十六を算するに至つた。

東宮行啓　大正十五年五月、攝政皇太子殿下には畏くも民情御視察の思召を以て、岡山、廣島、山口の三縣下へ行啓あらせられ、我が倉敷も御巡啓幷に御使御差遣等の光榮に浴したのである。

殿下には五月二十一日岡山御着、翌二十二日當地行啓、酒津にて高梁川改修の狀況御覽の後、在鄕軍人學校生徒、兒童、青年團員、女子青年會員壹萬壹千九百三十六人に御親閲を賜ひ、それより倉敷紡績株式會社萬壽工場に成らせられ、第二工場御視察の上、同工場內なる勞働科學研究所御巡覽、更に大原奬農會農業研究所を御巡覽あらせられ、ついで二十三日には東宮侍從牧野子爵を倉敷中央病院に御差遣あらせられた。

二　現在の倉敷

位置、廣袤、地勢、氣候、戸口、衞生、交通、街衢

位　置　倉敷市は岡山縣の南部、備中國の東南隅、北緯三十四度三十五分、東經百三十三度四十六分（基點は市の中央地點）に位し、本町三つ角の元標は岡山より約十九粁（四里二十九町十三間七分）玉島より約十四粁（三里十九町三間一分）の所に在つて、東北西の三方は都窪郡に連り、南は兒島郡に接し、倉敷川（汐入川）を以て水路兒島灣に通じ、東京より鹿兒島に達する國道及び鐵道山陽本線は市の北部を貫き、今や伯備線は倉敷驛より分岐して米子に通じ、東西交通、陰陽連絡の要衝に當つて居る。

廣　袤　東西四粁（約一里）南北五粁（約一里十町）面積一八・二平方粁（約一・一八方里、段別千七百八十七町一反五畝二十二歩）を占めてゐる。

地　勢　高梁川の沖積層であるため、地勢は概ね平坦な低地で、千分の一乃至千五百分の一の緩徐な勾配を以て南方に傾き、東端に標高百メートルの向山を控へ、中央に鶴形山、南方に足高山の小丘があるばかりである。

氣　候　市は瀬戸内海の中部に接してゐるので氣候は溫和である。室内溫度は大暑に於ても大概攝氏三十一度に上ることなく、極寒といへども零度以下に下らず、室外に於て最高三十四度、最低零度を越えない。午前十時の觀測に於て一月平均の四度六を最低とし、八月平均の二十八度二を最高とし、年中平均は十六度である。隨つて降雪少く、一寸以上積るやうなことは極めて稀であり、風雨烈しからず、快晴の日多く夏の夕凪は瀬戸内の特色である。

戸　口　隣接地合併以前よりの現住戸口增加の趨勢を示せば次の通りである。

種別	大正九年十月一日國勢調査	大正十四年十月一日國勢調査	昭和元年末	昭和二年末
現在戸數	五、二四一	五、九六六	六、〇一三	六、一三二
現在人口	二四、〇六七	二七、七九四	二九、八二七	三〇、四七六
本籍人口	—	—	二一、七六九	二一、八六〇

こゝに注意すべきは本市に於ては、女の數が男の數より多いことである。前表大正十四年國勢調査人口

を性別にすれば、男一二、三〇九、女一五、四八五で女の男を超ゆること三、一七六、女百に對し男七九・四人に當り、全國の女百に對し、男一〇一人と比して特異の割合を示してゐる。これは紡織事業の盛なるによることはいふまでもあるまい。

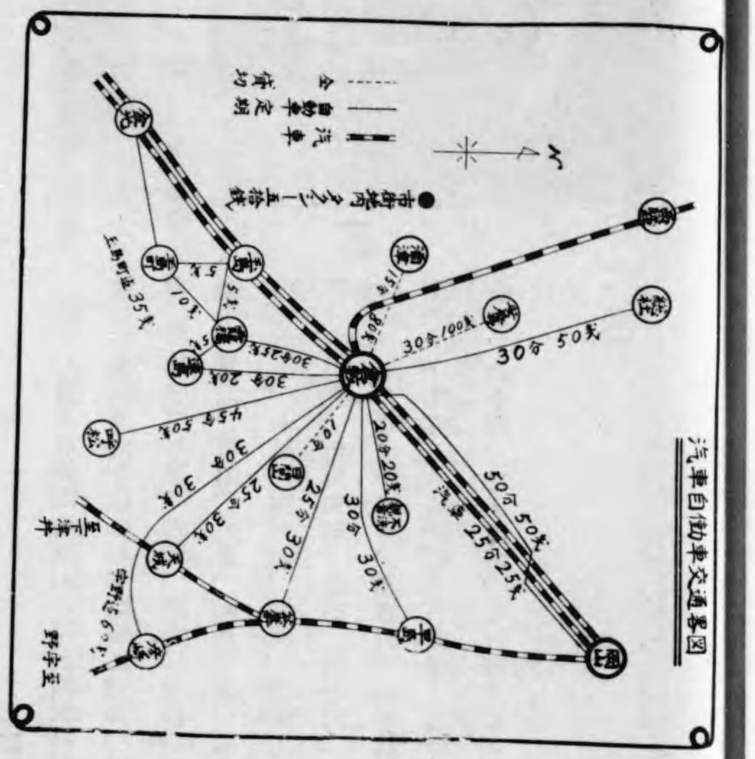
衛　生　上水道は大正十一年九月を以て竣功し、下水道は計畫案既に成り、汚物掃除法は大正九年より適用せられ、最近一ヶ年間の使役延人夫數五千四百人、同塵芥搬出量百五十萬貫に及んでゐる。その他醫師會附屬診療所、傳染病院、火葬場等の施設完備し、傳染病患者の發生は漸次減少の傾向にある。特に規模宏大にして最新式設備と各科專門の博士大家を有する倉敷中央病院の存在は獨り市民のみならず一般の大いに意を强うする所である。

交　通　鉄道山陽本線、伯備線、并びに國道路線等のことは既に「位置」の條に擧げた通りであるが右の外に府縣道路九線あり、なほ市は新に大規模の道路計畫を定めて着々實施するの準備成り、且つ最近都市計畫法の適用を受けることになつたので、市の交通はます〳〵便利となるわけである。

倉敷川（汐入川）による水運もまた重要なる地位を占め、發動機船、大型和船の出入絶えず、瀬戸内海を經て各地に交通の便あり、本市貨物移出入の一半は之によるのである。市は現に水運調査機關を設けてこの方面に一生面を開かんことを企てゝ居る。

近時自動車の發達は道路の發達と相俟つて交通上に新生面を開き、爲めに鉄道宇野線下津井線の利用極めて容易となり四國連絡の捷路こゝに開け、宇野線茶屋町驛に連絡すべき倉敷鉄道も已に認可されてゐる。目下市を起点とせる自動車線は左の通りである。

倉　敷　川



納營者	起点	終点	主要なる經過地	倉敷電話番號
倉敷自動車株式會社	倉敷駅前	早茶屋 天呼城 連島松 羽島	羽島 二日市 中帶江 二日市 有城 新橋 福井 五軒家 五軒家	三七一
三宅自動車部倉敷營業所	仝	連島	西阿知 霞橋	
KOタクシー	仝	岡山	撫川 庭瀬 白石	一三三
㊥藤井自動車部	仝	総社	生坂 山手	六四一
岡山タクシー	仝	岡山 玉島	水江 霞橋 玉島	四五一
㊇伯讃連絡自動車商會	仝	田ノ口	天城 林 福江 稗田 上村	二三九
宇野倉敷乘合自動車	仝	宇野	天城 彦崎 迫川 秀天 田井	二九
玉倉モーターバス	仝	岡山 玉島	五軒家 連島 霞橋 玉島驛	二三六

本町通

街衢　市街は鶴形山の西南麓本町を中心として漸次發達し、今や全山を抱擁して四周に擴がつてゐる。全市を倉敷安江、沖、四十瀬、富井、福井、老松、西中新田、白樂市、笹沖、吉岡、平田、大島、福島、濱、富久の十六大字に分ち中に東町、本町、西本町、戎町、濱田町、旭町、榮町、西榮町、阿知町、新阿知町、新町、若松町、川西町、新川町、稻荷町、西大町、砂越町、高砂町、向市場、船倉町、大黑町、踏切町、御船町、鯛原町、千歳町、萬町、壽町、前神町、御崎町、御幸町、日ノ出町、春日町等がある。

第二章　倉敷の大觀

一　社會的施設

1大原農業研究所、2倉敷勞働科學研究所、3倉敷中央病院、4倉紡圖書館
5倉敷天文臺、6若竹の園、7新溪園、8教育助成機關、9其他の社會的施設

1　大原農業研究所

農業研究所設立の動機及び目的　農業研究所の資産と經費
農業研究所の主眼と組織　農業研究所の書庫と藏書
農業研究所の國家的國際的地位

農業研究所設立の動機及び目的

世界大戰の起るや食糧問題、農村問題は世界共通の重要問題となつた。本市の素封家であり、大地主である大原孫三郎氏は早くもこゝに着眼し、大正三年七月、祖先傳來の土地中より百町歩を寄附し、後更にまた百町歩を加へ、父祖努力の記念として、父祖に

對する報恩の記念として、財團法人を組織し、深遠なる農業の學理を研究し、及び其の應用による農事の改善を圖る目的を以て、組織的な大計畫の下に農業研究所を創立したのが即ちこの大原農業研究所である のである。

農業研究所の資産と經費

農業研究所の資産及び經費はすべて大原氏の寄附に依るもので、土地二百二町歩餘、建物四十二棟九百二十九坪餘を有し、年々の經費は少きも拾萬圓、多くは參、四拾萬圓を要してゐる。

現在農業研究所にて使用せる宅地及び試驗地は合計壹萬參千貳百九拾七坪（約四町四反三畝）で、殘餘の土地は何れも小作又は住宅借地に附し、その小作料及び借地料は經費に充てゝゐる。

建物には事務室及標本室、種藝研究室、化學研究室、病蟲害研究室、蓄電池冷藏及農具室、煉瓦造三階建書庫、圖書閲覽室、溫室及硝子室、網室、農夫舍、收納舍、堆肥舍、農夫休憩室、住宅、寄宿舍、集會所、倶樂部等がある。

大原奬農會

農業研究所の主眼と組織

大原農業研究所の目的とするところは農業に關する學術の研究であつて、その結果は直ちに實地に應用せらるゝもあるべく、或は單に學術上の研究に止まり實用に遠きものもあらう。その研究は極めて自由で、短時日にして成績の見るべきものもあるべく、或は數年十數年の長期に亘るものもあらう。その研究題目は地方的のものもあるべく、或は極めて地方の農業に緣遠きものもあらう。要するに地方的事情、年月、及び目前の利害を超越して、農業に關する純然たる學術の研究に從事するを以て主眼とし、極めて寛大なる自由研究をなすを以てその特色とする。

研究所は種藝、化學、昆蟲、病理の四部門に分れてゐる。

種藝研究室は、普通農事一般に關する事項、就中主として作物育種、種子、米穀、作物生理、及び實驗遺傳に關する事項につきて研究する。試驗地として水田二町歩餘、畑四反歩餘を有する。

化學研究室は、農業に關する諸般の事項を化學的に研究するを目的とし、主として土壤及び肥料について研究する。その方法は化學分析並に細菌學的研究及び實地栽培試驗によるのである。

昆蟲研究室は、農作物及び園藝作物の諸種害蟲の性質、生態等を調査して作物に對する加害の程度を明らかにし、害蟲の天敵の利用、害蟲の驅除及び豫防に關する事項を研究する。

病理研究室は、諸種作物の病氣を調査し、その病原、分布並に地勢土質との關係を研究し、また植物の免疫性、種々の驅除豫防法を攻究する。

研究所に附設して有用植物を蒐集した植物園があるまた別に標本室がある。

昭和四年三月現在職員は所長農學博士近藤萬太郎氏をはじめ、研究員に農學博士、ドクター・オブ・フィロソフィー板野新夫、農學博士春川忠吉、農學博士西門義一の三氏、助手其他約二十名外に農夫若干名である。

農業研究所の書庫と藏書

農業研究所は三十一坪三階建煉瓦造の書庫を有し、なほこれに事務室、閲覧室及び製本室が附設してあつて、藏書總數五万三千餘册、農學、生物學、理化學に關する洋書、和漢書を網羅してゐる。就中フェッファー文庫は倉紡圖書館のフェルボルン文庫と共に世界の珍である。

大正九年獨逸ライプチヒ大學植物學教授フェッファー氏の歿するや、翌十年同氏の遺書一万三千三百五十三册を經めて購入した、これが即ち有名なフェッファー文庫である。その外大正十一年より同十三年に亘つて、山口彌輔氏獨逸に在つて莫大の圖書を蒐集し、大正十二年には松本圭一、西門義一の兩氏支那に渡つて農業に關する漢書を蒐集した。隨時購入せる圖書もまた尠くない。

農業研究所の國家的國際的地位

由來この種の專門圖書を世界的に蒐集せる所は、本邦に於て他にその類例が無いので、この方面の專門家の至寶とされてゐる。

大原農業研究所は我が國唯一のものたるのみならず、かくの如く整備せる組織と機關とを有し、農業全般に渉つて深遠なる學理の研究をなせるものは、世界に於て本所を除

いてはたゞ英國のローサムステッド農業試驗場とがあるのみである。隨つて大原農業研究所は世界に重視され、その研究報告は廣く歐米の學界に引用せられてゐる。

また丁抹に本部を有する萬國種子協會は種子に關する國際的研究機關で、歐米諸國の代表的官立種子試驗場が之に加盟して居り、本邦では私立ながら大原農業研究所が唯一の加盟研究所である。

なほ近く萬國土壤學會の支部を日本に置かるゝと同時に之を本研究所内に設置さるゝことに内定して居り、また昆蟲學、植物病理學に關しても國際的に研究の聯絡を保つてゐる。

大原農業研究所はその研究の結果を印刷に附し、廣く之を内外の大學、試驗場、研究所、學會等に頒布してゐる。即刷物には次の三種がある。

一、大原農業研究所報告　（歐文）　年約二回
二、同　特別報告　（邦文）　隨時刊行
三、農學研究　（邦文）　年約二回

右の外、本研究所の研究報告は、内外專門雜誌に登載せられ、廣く學界を裨益してゐる。

農商務省は本研究所の病蟲害の研究に對し、年々奬勵金を交付し、文部省は日本農業種子の研究に對し奬勵金を交付した。研究所は目下農林省の委託を受けて、主要食糧農産物の減損防除に關し基礎的試驗研究を行ひ完全なる防除方法確立に資するため、稻熱病螟蟲等の防除に關する研究を行つてゐる。

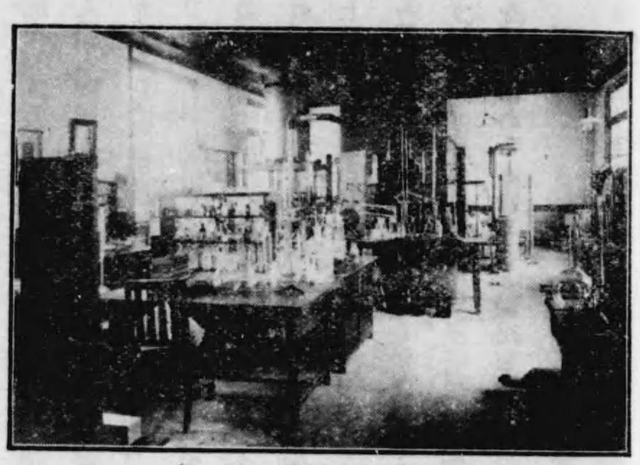
本研究所に於て研究し學位を得たる人々には、現京都帝國大學教授農學博士大杉繁、東北帝國大學教授理學博士山口彌輔、現研究所員農學博士春川忠吉、同農學博士西門義一の諸氏があり、また臺北帝國大學教授農學博士山本亮、盛岡高等農林學校農學博士小野寺伊勢之助、理學博士八木誠政、農學士笠井幹夫氏等も多年本研究所に在つて研究に從事された。

大正十一年十月大日本農會總裁梨本宮守正王殿下には本所に成らせられて親しく事業を巡覽あらせられ、大正十五年五月には、東宮殿下行啓御巡覽あらせられた。

2 倉敷勞働科學研究所

勞働科學研究所の設立まで
勞働科學研究所の研究部門
勞働科學研究所の研究目的及び研究項目
勞働科學研究所の使命

世界大戰の濟む頃から、一般社會問題の擡頭と同時に、勞働者の問題は殆んど其の主要問題となつた。倉敷紡績株式會社社長大原孫三郎氏は、大正八年、其の當時の狀勢に鑑み、大原社會問題研究所を大阪に設立して社會問題の研究調査を行ひ、以て其の解決に資せんとした。その當時、該社會問題研究所の組織中に醫學的研究の一分科が設けられ、この方面を擔當したのが即ち現在の倉敷勞働科學研究所長醫學博士暉峻義等氏である。大正九年に至つて大原社長は、新設萬壽工場（當時の萬壽村、今の倉敷市内所在）並びにその從業勞働者の能率及び保健狀態の改善に資せんが爲め、當時なほ社會問題研究所員たりし暉峻氏に、同工場に來つて、工場及び從業勞働者を研究對象として研究を行はんことを提議し、茲に現在の倉敷勞働科學研究所の創立を促すべき研究が初めて着手せらるゝに至つたのである。



研究所研究室ノ一部

大原社長は大正九年既に研究所の建設を意圖し、その組織及び設備に關する一切を暉峻氏に委任した。ここに於て暉峻氏の外に、石川、八木、桐原の三研究員が任命せられ、我が國初めての勞働者の夜業の關する科的研究が着手されるに至つた。越えて大正十年早早、研究所の建築が着手され、同年七月略々落成を見、こゝにいよ〳〵倉敷勞働科學研究所が創立されたのである。

勞働科學研究所の研究目的及び研究項目

爾來歲月を重ぬると共に、研究所の組織と機能とは着々として整ひ、其の社會的使命は益々重きを加ふるに至つたのである。

現下の社會組織が、産業的機構を中心として進展する以上勞働科學は、一般社會は勿論、産業社會に對して重要なる職

能を有することは理の當然であるが、過去及び現在に於ける多くの産業に關する諸種の見解は、主として人間と機械とを、その最大最高の能率に於て活動せしめようとするに外ならぬと云つてよいのである。しかしながら、勞働科學研究所に於ては、その研究の目的とするところ、單に最大の經濟的利益如何の問題ではない。勿論人間の勞働の條件とその効果とに就いて研究するものであるが、たゞに勞働の條件や勞働の効果を研究し、之を實證して足れりとするものではない。更に進んで最上最善の人間勞働の方法を發見し、その原理原則を樹立するを以て目的とするものである。それ故に、勞働科學研究所は、人間勞働の最上最善の條件と効果とを、經濟的利益といふ点よりも、寧ろ人間の勞働力の正當なる行使並に保持の理法を發見し、勞働力の絶えざる繁榮を圖るといふ点から研究し、以て産業の合理化に進むものである。約言すれば、倉敷勞働科學研究所の研究目的は、産業の合理的組織並に人間勞働の合理化に關する科學的研究を爲すにあるといふことが出來る。

以上のやうな目的から必然に三つの主要なる研究方面が開かれて來る。即ち

(一)には、適所適材の科學的原則を産業の各方面に樹立すること、之に依つて社會の職業配分が。より進歩した理念の上に行はれる可能性を強めること。

(二)には、若し適所適材の原則が樹立されると假定しても、その勞働條件にして最上ならず、否、不良であるならば、社會的不幸は到底阻止し得難きが故に、最小のエネルギーの費消と最小の疲勞とを以て、最大の勞働効果を收め得る勞働條件並に勞働環境の研究によつて、所謂勞働者の作業の全環境を科學的に合理化すること。

(三)には、現代の社會的機構の下では、職業分化がますゝ進み、勞働樣式の單調化、單純化を來し、職業及び勞働が固定化する。この傾向から、勞働者の心身の完全なる發達が阻止されるのみならず、職業的發育偏倚、職業的疾患を誘致する。よつて之を阻止し豫防する方法を研究すること。

勞働科學研究所の研究部門

勞働科學研究所には、以上の目的及び研究方針を充足する爲めに、左の如き研究部門が設けられてゐる。

一　産業生理學に關する研究部門

二　産業心理學に關する研究部門

三　體格及び體質に關する研究部門
四　産業衛生並に職業的疾患に關する研究部門
五　集團營養に關する研究部門
六　社會衛生に關する研究部門

而して是等六つの研究部門は、それ〴〵獨立した研究方面を開拓すると共に、互に協力補佐して共同的研究を行つてゐる。今日までに行はれ來つた研究は、勿論上記の三大研究方針の範圍に屬してゐるのであるが、之を要約して具體的に云つて見れば、

一、職工撰擇に關する研究、即ち如何なる心性と如何なる體格及び體力が現在の産業的活動に要求されつゝあるか、又現在の各産業的部門の要求する勞働者の精神的並に身體的資質は如何なるものであるかに關する研究。

二、産業疲勞に關する研究、隨つて最小の疲勞を以て最大の仕事を爲し得る條件の研究。

三、環境條件、殊に工場内溫度、濕度、空氣の流動が其處に働く勞働者の心身に及ぼす影響、及び其等

と生産力、疾病率、災害發生との關係に就いての研究。

四、特殊なる職業群に關する調査研究。

大要右の四項に歸せしめることが出來る。

かくして爲されたる諸研究は、すべて、倉敷勞働科學研究所の業績發表機關雜誌勞働科學研究（四期刊行）に依つて公表せられ、更に勞働科學研究所年報及び同上歐文（不定期刊行）に依つて要約せられることになつてゐる。なほ研究所からは、日本社會衛生年鑑（年一回）が出版せられ、これには、年々我が社會の各方面から公表せらるゝ社會問題に關する論著の中、醫學上の研究結果の採つて以て一般社會問題研究者の參考に資すべきもの、並に醫學以外、例へば哲學、心理學、社會學、經濟學、法律學等の論著にして醫學者の參考に資すべきものを蒐錄し、以て社會科學の進歩に貢獻してゐる。

勞働科學研究所の使命

上述の如き組織と使命とを持つ勞働科學研究所は我が國現下の社會狀態に照し合せて誠に有意義な、無くてはならぬものでありしかも斯樣に醫學と心理學とを基調とする社會科學の研究機關は實に我が邦唯一無二のもので、研究所同人等は「現代資本主義社會

下に於ける無產者の生活が人間らしくならざる限り一歩も研究の歩をゆるめない。」といふ主張のもとに研究に從事してゐる。かくの如き研究所を持つといふことはわが倉敷市の誇であらねばならぬ。

獨逸、英吉利などに於ても、又最近にはソビエット社會主義聯邦に於ても、わが倉敷勞働科學研究所と同じ使命を持つ研究所が建てられてゐるのであるが、その組織と機能との点に於ては、いづれも一長一短で、わが倉敷勞働科學研究所の組織內容は決して、是等諸外國に優るとも劣るものではなく、歐米の專門學者は常にわが倉敷勞働科學研究所の業績に對して多大の注意を拂ひつゝめるのである。

尙研究所には勞働者の衞生產業の合理化等に關する調査研究資料が數多く蓄藏せられしかも是等の資料は系統的組織的に陳列せられ、やがては之を中心として勞働者衞生博物館が設立せらるゝ事になつてゐる

大正十五年五月には

皇太子殿下本研究所に行啓あらせられ、親しく研究狀態を御視察遊ばされた。

本研究所は醫學博士暉峻義等氏を所長とし、醫學博士八木高次、同石川知福、文學士桐原葆見、醫學士松島周藏の四氏の所員及ひ專門研究者十名、助手十數名在職、研究に從事してゐる。

3 倉敷中央病院

中央病院の創立　中央病院の特色
中央病院の規模　中央病院の組織
中央病院の光榮　最新醫術の研究

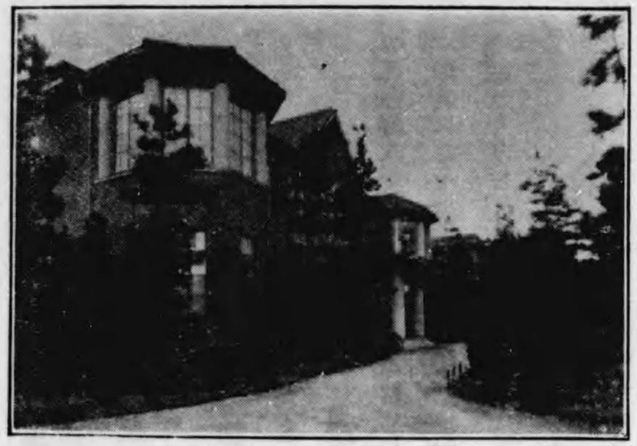
中央病院の創立

倉敷中央病院は倉敷紡績株式會社の經營にかゝり、はじめ倉紡中央病院と稱したが、後今の名に改めたのである。

倉敷紡績會社は多數の從業員並にその家族の健康を保持する必要上從來各工場に醫局を設けて保健及び診療に當らしめたりしも、なほその不十分なるを遺憾とし、新に大規模の中央病院を創立し、同時に之を公開して、一般社會の利用に供せんとし、大正十年工を起し、同十二年五月竣工、六月二日開院式を擧げ、七月一日より診療に從事するに至つたのである。

中央病院の特色

中央病院は完全なる治療と懇切なる看護とにより、最も進歩したる醫術に浴せしむることを以て院是としてゐる。故に營利を目的とせず、患者を以て研究の對象とせず、又



倉敷中央病院

救濟慈善に偏せず、患者を平等に取扱ひ、入院料に等級を附せず、看護設備を充實して弊害多き職業的附添人制度を禁止し、從業員に對する心附、贈物等を嚴禁せるが如きは特色の著しいものである。

中央病院の規模

敷地一一、五三三坪、建物三、五八七坪、内、病舍一、二〇〇坪、病床數二二〇、外來各科五〇〇坪、炊事洗濯機關室等一、〇〇三坪、看護婦寄宿舍五〇〇坪、研究室三八四坪等を有し、いづれも最新式の設備を施してある。なほ看護婦養成所、産婆養成所をも特設してある。

中央病院の組織

大正十二年六月開院當時には内科、外科、婦人科、眼科、小兒科、耳鼻咽喉科、物理療法科の七科を置かれたが、同年十一月齒科を新設し、昭和四年二月整形外科を新設して物理療法科と合し之を整形外科X線科と改稱した。現在の組織は左の通りである。

昭和四年四月現在

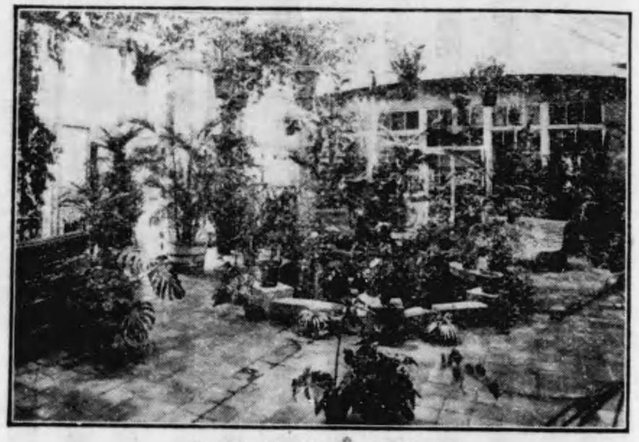
院長兼婦人科醫長	醫學博士	本多操氏
内科醫長	醫學博士	松原良一氏
内科醫員	醫學博士	久島環氏
内科醫員	醫學博士	祝洋之助氏
外科醫長	醫學博士	山崎直治氏
婦人科醫員	醫學博士	尾藤太氏
眼科醫長	醫學博士	林雄造氏
小兒科醫長	醫學博士	服部峻治郎氏
小兒科醫員	醫學博士	南出英憲氏

耳鼻咽喉科醫長	醫學士	中出捨次郎氏
整形外科X線科醫長	醫學士	宇野俊治氏
齒科醫長		吉澤八郎氏
藥局長	藥學士	桑田智氏
事務長心得		笹邊親氏

なほ右の外に醫員約二〇名、技術員藥局約一五名、看護婦約四〇名等を有する。

因に開院以來五ヶ年間の診療人員は次の如くである。

外來新患	一〇二、九一四人	一ヶ年平均 二〇、五八二人
同延人員	五四八、二五九	仝 一〇九、六五一
入院新患	一一、二五二	仝 二、二五〇
同延人員	二八六、〇四九	仝 五七、二〇九



病院患者慰安温室

中央病院の光榮

中央病院は設立以來日なほ淺きも、特色ある病院として一般に認められ、大正十五年五月には畏くも皇太子殿下より御使御差遣の光榮に浴したる外、大正十四年五月には內務大臣若槻禮次郎氏、同年十一月には國際聯盟萬國衞生技術官會議出席者一行、同十五年七月には國際勞働協會婦人勞働問題委員一行、同年十月には子爵後藤新平氏、同十一月には遞信大臣安達謙藏氏、昭和二年十月には陸軍大將山梨半造氏、神戸駐劄和蘭領事ウェー●ハー●デ●ローズ氏、同三年五月には日本銀行總裁井上準之助氏、同七月には陸軍大將宇垣一成氏等が視察のため來院されてゐる。

最新醫術の研究

中央病院では、患者に對する治療の完全を期し、更に進んで研究を重ね、斯界に貢献するの目的を以て、外には常に醫員を海外に出張せしめ、内には研究室を設けて研究に便してゐる。

開院の當初から中央試驗室を設けられたが、小規模で不十分なるを認め、大正十五年九月耐火的研究室を新築し、製劑、化學、生理、病理、細菌の五部を置き、各醫長藥局長これが主任となり、醫員藥局員の指導研究に從事し、開院以來研究會を開くこと二十餘回、昭和元年度よりは毎年研究報告を行つてゐる。

また醫學に關する圖書を蒐集して倉紡圖書館内に保管し、院内には別に圖書閲覽室を設けて臨床上必要なる圖書を藏め、内外專門雜誌閲覽の便に供してある。

開院以來本病院の職員にして學位を受領したる人々には、林雄造、脇田政孝、服部峻治郎、西端驥一、石原俊士、早野常雄、久島環、南出英憲、吉田璋也、祝洋之助、右川庸夫等の十數氏がある。

4 倉紡圖書館

倉紡圖書館の沿革　圖書の特別蒐集
本館特色の一　本館特色の二
本館特色の三

倉紡圖書館の沿革

倉紡圖書館は大正十年倉敷紡績株式會社長大原孫三郎氏が全從業員の智識的向上の爲めに、科學、社會、産業、文化等の各方面の圖書を蒐集し、併せて之を廣く一般社會に公開し、以て地方的の文化に貢献せんと企圖したに初まる。その後この最初の計畫は變更せられ、現在に於いては主として倉敷勞働科學研究所及び倉敷中央病院の學術的研究事項に對して必要なる書籍雜誌、並に産業及び社會關係の書籍文献を蒐集することになつてゐる。

圖書の特別蒐集

大原社長は大正十年歐米に派遣した勞働科學研究所長暉峻義等氏其他に依囑するに、歐米に於ける文献を蒐集すべきことを以てした。依つて暉峻氏は大正十年、十一年、十二年の三ヶ年に亘つて、獨逸、伊太利、佛蘭西、英吉利、亞米利加の諸國を巡つて、こ

の文献蒐集の仕事に從事したのである。辻綠氏、波多腰正雄氏等も、主として內科學、外科學方面の文獻蒐集を担當したのであるが、藏書の大部分は暉峻氏の歐米各地に於て蒐集するところである。

本館特色の一

倉紡圖書館の現在藏書は約七万册に上つてゐる。その主なるものは自然科學、殊に醫學、生物學の方面に於ける學術研究雜誌及び報告の殆んど全種類を網羅し、しかもそれが初號より現在に至るまで殆んど缺本なく蒐集されてゐる点に於て、實に立派なる內容を具備してゐると云はれてゐる。中にも本圖書館の誇とすべきは、獨逸、英吉利等に於けるアカデミーの諸報告が比較的多く且つ完全に含まれてゐることである。

本館特色の二

第二に本圖書館の特色として誇り得べきは、大原農業研究所書庫に於ける、植物學者フエツフワー文庫と相並んで、生理學者フエルボルンの藏書を有してゐることである。フエルボルン文庫は自然哲學並に文化史の名著を多く包含し、又別に數千册の學術論文を含んでゐる。

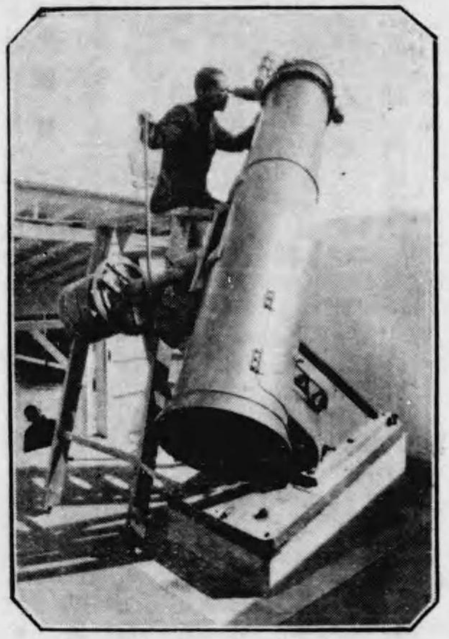
本館特色の三

第三の本圖書館の特色はゲツチンゲン醫學史文庫である。本文庫は暉峻氏が大正十一年ゲツチンゲン大學當局と交渉の結果購入したものであつて、當時ゲツチンゲン大學は戰後の經濟困難の爲め、この貴重なる醫學史文獻を賣却し、之を資金として新しき資料を求め、以て圖書館經營の危機を免れ得たと云はれてゐるのである。本文庫の內容は十五、十六、十七、十八の四世紀に亘る自然科學發祥時代の生物學、醫學上の發明發見の貴重なる典籍を含み、醫學上のみならず一般學界の至寶と稱せられてゐる。

なほ本館及び大原農業研究所書庫、勞働科學研究所、中央病院所藏の專門學術雜誌を總合すれば、外國雜誌五百種、內國雜誌三百種、合計約八百種の多きに上つてゐる。

5 倉敷天文臺

本邦唯一の民衆天文臺



倉敷天文臺

實地觀測と天文講演

本邦唯一の民衆天文臺

倉敷天文臺は本市の素封家原澄治氏が獨力で大正十五年に創立された、本邦唯一の民衆天文臺で、天文同好會の經營にかゝり、ドームはスライディング式、望遠鏡は英國製ニュートン反射型、口徑十二吋半、四〇倍乃至六〇〇倍のカルヴァ大望遠鏡で、地下より練上げられた鉄筋コンクリートの基礎の上に据附けられ、その堂々たる偉觀は學界の

一大驚異たるを失はない。我が國では京都帝國大學の十三吋に次ぐ最大のものである。

實地觀測と天文講演

天文臺は大正十五年十一月二十一日開所以來、毎月第一、第三の土曜日には天文講演會や觀測會が催され、主事が親しく指導の任に當つて居る。昭和二年ウインネケ彗星接近の際の婦きは毎晩無慮一千人からの人が押寄せて來て非常な大混雜を來したことがある。

現在職員は

名譽臺長		原澄治氏
臺長	理學博士	山本一清氏
臺員	理學士	宮原節氏
主事		中村要氏
主事		水野千里氏

6 若竹の園

若竹の園の生ひ立ち　園の設備
園の事業　園の特色

若竹の園の生ひ立ち

若竹の園は、大正九年倉敷紡績株式會社關係の夫人を中心としたる有志婦人によつて組織された倉敷さつき會の經營にかゝる保育所である。

本市が近年産業都市として著しき發展を來すや、倉敷さつき會は大正十一年五月の總會に於て、現下の社會的情勢に應ぜんがため、且つは會員個々の自覺と相俟つて、この産業都市に於ける社會的不幸を減じ、その缺陷を充たさんがため、中産階級以下の乳兒並に幼兒の保育保護の社會的事業を起すの議を決し、爾後會の幹部は會員の熱心なる協力の下に、事業資金調達のために、バザーに、實業部に、其他種々の社會的活動をいとなんだ。此の間、倉敷紡績株式會社當路者の熱心なる後援もまたこの企畫遂行に對して重要なものであつた。

かくて保育所は大正十三年五月起工、翌十四年二月竣工、故法學博士小河滋次郎氏によつて若竹の園と命名せられ、同年三月保育事業を開始するに至つた。

若竹の園

園の設備

若竹の園は西村伊八氏の設計にかゝり、敷地五百六十坪、総建坪百五十八坪、建築は最近文化樣式の粹を凝らし、見るからに若々しい明るい感じのもので、採光に通風に、其他すべて保育上遺憾なきを期し、カーテン、壁の色まで一々專門家の指導監督に待ち、他に見難い模範的のもので、事務室、醫務室遊戯室、教室、ベランダ、寢室、ホール、食堂、炊事場、浴場、保姆私室、集會場等を備へてゐる。

園の事業

幼兒の年齢により園兒を月の組（年長）星の組（年少）の二つに分ち、星の組には晝食を給し、兩組とも一日一回の間食を與

へ、午前六時から午後六時まで保育する。但し保育時間は季節により多少の伸縮がある。

右の保育事業の外に親の會、同窓會、子供會、夜學裁縫部、兒童健康相談所等各種の隣保事業を行つてゐる。

園の特色

若竹の園は岡山縣最初の保育所であり、その建築に於て、設備に於て、はた保育の行屆ける點に於て、全國有數のもので、遠方よりの參觀、名士の視察多く、年々の來觀者一千數百名に及んでゐる。

倉敷中央病院及び倉敷勞働科學研究所と特種の關係を有し、園兒の保健及び精神檢査等に多大の便宜を有することもまた本園の特色である。

新　溪　園

7 新溪園

新溪園の由來

新溪園の利用

新溪園はもと大原孫三郎氏の別邸であつたが、大正十年十二月庭園々地建物諸調度一切に保繕準備金壹萬圓を添へて市に寄附されたもので、市は之を公園とし、建設者なる先代孝四郎氏の雅號新溪を取つて園に名づけたものである。

新溪園の由來

近時倉敷市街の膨脹に伴ひ、園の位置は恰も中樞の要地を占むるに至り、加ふるに市に於ける社會的設備は未だ不充分なるを免れざるものあり、平素社會的設備の充實を主張せる大原氏は、かゝる廣大なる邸宅園地をこゝに占有するは自己

平素の主張に反すとなし、社會的の使用に供する目的を以て解放に一歩を進め、維持資金を附し、全然市に提供され、なほ引渡に先だち、園地及び附近の住宅地域を整理し、新に道路を築造し、使用上遺憾なきを期せられたのである。

新溪園の利用

新溪園は面積約六十七アール（二千十七坪）園池木石雅趣に富み、たゞに遊息に適するのみならず、廣き芝生は園遊會を催すに足り、亭樹數宇、総建坪百九十八坪、最も大なるものを敬儉堂とし、之に次ぐものに游心樓及び茶の間あり、これ等は年中公會堂として一般の使用を許し、敬儉堂は目下市會の議事堂にも充てられてゐる。別に管理人の居宅もある。

大原氏の提供せられたる諸調度中には、多數の書畫をはじめ、火鉢、煙草盆、座蒲團等に至るまで、あらゆる用具をも含み、諸般の會合、市賓の接待等にも極めて便利で盛んに利用されてゐる。

8 教育助成機關

(1) 倉敷奬學會　(2) 萬壽奬學會
(3) 大高父兄團　(4) 倉敷兒童保護協會
(5) 倉敷小學教育助成會

教育助成機關には倉敷奬學會、萬壽奬學會、大高父兄團、倉敷兒童保護協會、倉敷小學教育助成會等があつて、或は基金の利子により、或は會員の醵金により、姙産婦の保護、乳幼兒の保護、學齢兒童の保護學習費補助等諸種の事業を經營してゐる。

(1) 倉敷奬學會、創立最も舊く、明治三十六年四月、故大原孝四郎氏が、基金の利殖を以て當時の倉敷町兒童にして就學上困難を感ずるもの、就學奬勵の費に充つる目的を以て金壹萬圓を寄附せられ、之を基金として倉敷奬學會を組織し、財團法人としたもので、創立以來年々利子の剩餘を生じ、之を基金に繰入れ、現在の基金は壹萬參千圓となつてゐる。

補助の方法は家庭補助金と學用品給貸與との二つに分ち、補助金は月額參拾錢乃至貳圓五拾錢、給貸與

學用品は教科書筆紙墨帳面等でその全部又は一部を給する。

創立以來昭和元年度迄の家庭補助金総額九千五百餘圓、補助人員七百數十名、同學用品給貸與金額貳千餘圓、給貸與人員四千百餘名に上つてゐる。

(2) 萬壽奬學會、明治三十九年二月、戰役記念事業として創設したもので、現在基金貳千貳百圓、この利殖金を以て學用品給與、体育施設の補助等を行つてゐる。

(3) 大高父兄團、大正十一年四月の設立で、基本財産四千七百圓、一ヶ年經常費約貳千圓を以て、學用品の共同購入、講演會、兒童養護、就學奬勵を目的とする給與等の事業をしてゐる。

(4) 倉敷兒童保護協會、大正十二年五月學制頒布五十年記念として設立したもので、現在會員六百餘名年醵金千貳百圓、縣市補助四百圓を以て、無料助産、兒童健康相談、健康兒審査等の事業をしてゐる。

(5) 倉敷小學教育助成會、昭和二年の創設である。基金は木山巖太郎氏の寄附金を主としたもので、其の額壹萬參千圓、兒童の學習資料蒐集、兒童体育向上の施設、兒童修學旅行の補助、兒童修養娯樂の施設等の事業を行つてゐる。

9 其他の社會的施設

(1) 倉敷市濟世會　(2) 倉敷市養老救濟事業
(3) 倉敷市羅災救助資金　(4) 倉敷職業紹介所及倉敷人事相談所
(5) 倉敷市醫師會附屬診療所　(6) 倉敷市公益質屋
(7) 倉敷市窮民救助

(1) 倉敷市濟世會　岡山縣濟世顧問及濟世委員設置の趣旨を達成するを以て目的とし、大正十四年七月組織されたもので、市役所社會掛と連繫し、防貧、救貧、其の他濟世利民に關する事項を取扱つてゐる。

(2) 倉敷市養老救濟事業　大正九年二月大原孫三郎氏より養老救濟資金貳萬圓の寄附があつたのを機として起したもので、六十歳以上で職業を營むことが出來ず、或は職業を營むも尙生計困難な者に情況に應じて、扶養料、住宅料、被服料、醫療料、慰藉料、保護料等を給與する。

(3) 倉敷市羅災救助資金　大正七年米價暴騰の際有志者の寄附にかゝる廉賣資金の剩餘金の蓄積金壹萬七千六百餘圓を以て救助資金とし、本市住民の非常災害に罹つた者に情況に應じて、避難所費、食料費、

被服費、治療費、小屋掛費、就業費、學用品費、運搬用具費、人夫費等を給與する。これは大正十二年一月から實施したものである。

(4) 倉敷職業紹介所及倉敷人事相談所　倉敷職業紹介所は原澄治氏の個人經營にかゝるもので、大正八年六月創立、無料で職業紹介相談の求めに應ずる。現在までの職業紹介人員二百八十五名、就職者百二十四名。同所内には別に倉敷人事相談所の設けがあつて人事上各般の相談に應じてゐる。專務所は西本町にある。

(5) 倉敷市醫師會附屬診療所　昭和二年八月一日の創立にかゝり、本市在住の貧困者で疾病に罹つたものを診療する。診療所は御崎に在つて治療券は濟世委員及醫師會員から發行する。現在までの取扱患者數八十名、延人員五百十三名。

(6) 倉敷市公益質屋　前神町にある。公益質屋法によつて中產階級以下の者に對し貸付を行ふ。昭和二年七月の創設で、同年度の經費豫算額參萬九百九拾圓、昭和三年三月末日調査入質高五百九十二口、此の金貳千參百五拾八圓、出質高二百四十二口、此の金九百拾五圓である。

(7) 倉敷市窮民救助　市は救助規程によつて窮民に對し、その狀況に應じて、食費、副食物、幼兒保育料、藥價、藥餌料、診察料を給し、その死亡に當つては、棺桶、埋葬人夫賃、墓標、雜費、火葬費を給する。昭昭三年度救助支出金額貳千四百拾壹圓六錢、救助人員八十四人。

新興の倉敷市、上水道、下水道計畫、道路計畫、都市計畫、鶴形山公園

新興の倉敷市　倉敷は古來富裕を以て知られた土地であつたが、近時産業都市として異常の發展を來し、道路日に開け、家屋月に成り、年々新市街を形成するの活況にある。今最近の都市的施設を見るに次の如きものがある。

上水道　水源地は市の北郊二粁、高梁川の左岸酒津にある。字城ノ内に水源井五個を掘鑿し、地下約一米五の深さに連絡管を埋設して各井の湧水を集水池に導き、これに隣つて喞筒場を設け、高揚喞筒で標高四十二メートルの地點にある青江山々腹の配水池に送水し、こゝから菅生村を經て自然流下に依り配水する裝置であつて、送水管及び配水管の総延長は約二十粁に及んでゐる。

初め計畫を立てたのは大正八年工事着手は同十一年二月、完成は同十二年九月、総工費參拾參萬八百圓職工人夫三萬三千人、當時の町人口一萬三千人に對し、二萬五千人に給水し得る計畫に成つたものである而して其の水質が極めて清洌なこと湧出量の多いことは實に全國に其の比を見ない程であるといはれる。

現在の給水狀況は

給水栓數

消火栓	放任給水栓	計量給水栓	計
二〇四	一、〇八五	四八二	一、七七一

給水戸數

専用栓引用戸數	共用栓使用戸數	計
放任給水	計量給水	公設	私設	
一、〇二四	四八二	一、〇〇〇	四五二	三、〇三八

給水量（右單位立方米　左單位立方呎）

一ヶ年給水量	日給水量		
	最多	最少	平均
六八〇、六四四・〇	二、九六二・〇	一、三〇〇・〇	二、一三一・〇
二四、〇二三、三五五・七	一〇四、四八四・四	四五、八七七・二	五五、八八八・〇

近時市の急激なる發展に伴ひ、水量に不足を告げんとする傾向があるので、目下第一期擴張計畫中でありこれに要する經費見込額は約貳拾萬圓である。

下水道計畫　大正八年上水道と共に調査に着手し、先づ上水道を完成し、昭和三年三月に至つて下水道計畫も亦完成を見るに至つた。

該計畫によれば幹線管渠十一線その延長九千八百三メートル、支線管渠延長一萬六千七百一メートル、總工費參拾八萬圓の見込である。

道路計畫　大正十四年七月道路計畫調査機關を設け、昭和三年八月計畫完成に至つたもので、路線數百三、幅員最大十七米、最小二米半、總延長八萬千八百五十三米、工費概算貳百八拾八萬餘圓に達する。

都市計畫　昭和三年九月六日勅令第二百二十五號を以て本市に都市計畫法を適用せられ、續いて市街地建築物法も適用さるゝに至つた。

鶴形山公園　市街の中央、鶴形山頭、阿智神社の外園は即ち鶴形山公園である。東は兒島灣を望み、北西は吉備の諸名山を指点すべく、南は近く向山の翠綠と相對し、足高山また呼べば應へんとし、遠くは瀬戸内海を隔てゝ讃豫の遠山縹渺のうちに在り、倉敷全市を一眸のうちに收め、風景絶佳古くより文人墨客の來り遊ぶもの頗る多く、夙に鶴形山八景の目あり、蕪城秋雪、柳井絅齊の十二勝詩等がある。試にその

鶴形山公園妙鶴亭

二三を擧げて見ると

鶴形山櫻雲　古來櫻樹が多い。

愛宕山新樹　愛宕山は向山の別名である。

葦高山晩霞　葦高山は足高山に同じ。

帶江岳曙色　東に名高い帶江銅山を望む。

甲兜山秋月　西北、酒津に「かぶと山」がある。高梁川の河中にある島山。

福山嶺雪後　福山は市の北郊に聳ゆる附近の最高峯で標高三百メートル、延元の古戰場。

兒島灣遠帆　これは說明するまでもない。

公園施設の初めて成つたのは、明治二十七年、時の町長植田年翁の盡力によるもので、最近には主として鴨井銀三氏の篤志によつて、大いに舊觀を改めた。

園の面積約九十五アール（二千八百六十九坪）木石蒼古、結構布置おもしろく、忠魂碑あり、芭蕉の句碑あり（咲みだす桃の中より初ざくら）臥龍の松の根に明和の仁人岡雲臥東廣場に維新の志士林梧陰の頌

德碑あり、面積約十五アール（一反五畝）の大藤棚、同く約半アール（十五坪）の白藤棚あり、亭榭三棟あり、猿兎小鳥等の動物を飼育せるあり、池に緋鯉を放ちあやめを植ゑたるあり、昭和三年新に櫻、楓、さつき、霧島千五百本を植ゑたるあり、夜間は電燈を點じ、四時晝夜遊覽をほしいまゝにすることが出來る。

三　官　公　署

倉敷警察署、倉敷税務署、倉敷驛、倉敷郵便局、倉敷驛前郵便局
岡山縣倉敷土木出張所、玉島區裁判所倉敷出張所、都窪倉敷各種團
体事務所、倉敷市役所

倉敷警察署　旭町南通一丁目にある。舊郡役所の廳舍に改修を加へて昭和三年四月同町の舊廳舍からこゝに移つたものである。倉敷市及び都窪郡の内、清音、常盤、山手、三須、加茂の五ヶ村を除いた外の十一ヶ町村、吉備郡の内庭瀬町、兒島郡の内、興除、藤田の二ヶ村を管轄し、警部派出所一、巡査派出所三、同駐在所二十一である。

倉敷税務署　旭町南通一丁目にある。もと新阿知町にあつたが大正十三年三月こゝに新築移轉したものである。倉敷市及び都窪、吉備の二郡を管轄してゐる。

倉敷驛　榮町通の正面にある。岡山驛を距る十哩。山陽本線と伯備線との分岐点である。明治二十四年四月二十一日營業開始、明治四十三年十一月一日倉敷電信取扱所設置、大正四年四月帶江信號所開設

倉敷驛

當驛管理となる。大正十四年一月東西信號取扱所設置、大正十四年二月驛舍本家改築、大正十四年二月十七日伯備南線倉敷宍粟間開通、旅客乘降人員最多期四月に於て一日平均一萬四千八百六十七人、最少期十二月に於て一日平均二千六百五十一人一ヶ年乘車人員八十四萬、同降車人員八十萬、岡山、笠岡、宇野と共に縣下の主要驛である。

倉敷郵便局　本町にある。明治四年十一月二十五日郵便取扱所設置、その後數度の變遷を經て、明治三十九年十二月一日倉敷郵便局と改稱今日に及んでゐる。郵便一般事務を取扱ふ。

倉敷驛前郵便局　驛前榮町にある。昭和三年四月一日の新築開局で、書留、小包、爲替、貯金、振替貯金、保險、年

金、恩給等を取扱ふ無集配局である。

岡山縣倉敷土木出張所　濱ノ茶屋通四丁目にある。昭和二年五月初めて各種團体事務所内に開所し昭和三年八月こゝに新築移轉したものである。管轄は倉敷市、都窪郡一圓、兒島郡の内、藤戸、粒江、福田、本荘、下津井、赤崎、味野、琴浦、小田、鄕内の十ヶ町村、淺口郡の内、玉島、富田、長尾、船穗、連島、西阿知の六ヶ町村、吉備郡の内、岩田、福谷、大井、日近、足守、阿曾、生石、高松、眞金、服部総社、神在、秦、庭瀬、穗井田、二萬、薗、箭田、吳妹、川邊、岡田、新本、久代、山田の二十四ヶ町村に亘り、土木行政事務をつかさどつてゐる。

玉島區裁判所倉敷出張所　旭町北通一丁目にある。もと榮町にあつたが、昭和二年三月こゝに新築移轉したものである。倉敷市及び都窪郡の内、帶江、菅生、中洲、清音、常盤、山手、三須の七ヶ村、兒島郡福田村の一部、粒江村の一部を管轄し、登記事務に當つてゐる。

都窪・倉敷各種團体事務所　旭町南通一丁目にある。郡役所廢止の結果、大正十五年七月各種團体の申合に依り、舊郡役所跡に置いたのであるが、昭和三年四月倉敷警察署と廳舍を交換移轉した。

都窪郡農會を始め都窪郡或は都窪郡倉敷市聯合の各種團体の事務所の多くは茲に在る。

倉敷市役所　前神町にある。現在の廳舍は大正五年三月新築の舊倉敷町役場をそのまゝ襲用してゐるので頗る狹隘不便であり、近く新築移轉の筈である。

沿革、市政機關、財政

沿革　舊幕時代の倉敷は代官陣屋の所在地で、村政は庄屋、年寄（六名を例とす）及び百姓代（三名を例とす）の三役之に當り、庄屋は官選で世襲的であり、年寄、百姓代は古くから村役人の推薦によつて官が任命したものであつたが、庄屋の專横を制するため、幕府へ上訴の結果、文政十一年以後は庄屋も亦村役人の推薦となり、こゝに早くも純然たる自治制を實現した。而して普通の事務は月當番の年寄が之に當り、百姓代は相談役といつた形で役場を會所または會議所といつてゐた。維新の際代官所は一時備前藩鎭撫となり、それから倉敷縣、深津縣、小田縣を經て今の岡山縣となり、庄屋は戸長と代り、村は村界の錯雜地飛地を整理して有城村の一部を併せ、明治二十二年六月町村制施行の際從來の區域を以て倉敷村となり、明治二十四年六月町制施行、昭和二年四月倉敷町萬壽村大高村を廢しその區域を以て新に倉敷町を置き、昭和三年四月市制施行、全國百三都市の班に入つたのである。

市政機關　現在市政機關は左の通りである。

執行機關

市長	助役	收入役	主事	書記	書記補	技師	技手	機關手	機關手補	掃除監督	掃除巡視	水道巡視	計
一	一	一	五	二五	二五	一	二	欠	二	一	一	二	毛

備考　技師、技手、機關手、仝補、以外は定員を示す。

各種委員

學務委員	道路計畫調査委員	土木委員	臨時水道委員	臨時公園委員	倉敷川浚渫委員	墓地火葬場ニ關スル委員	計
一〇	七	七	五	三	五	九	四六

本表の外市長囑託に係る御大禮記念倉敷市水運調査委員二十二名あり。

市會議員　三十人

財政　昭和四年度豫算は総額四拾參萬壹千八百五拾八圓で經濟別概要左の通りである。（昭和四年四月調）

經濟名	歳出	經濟名	歳出
一般會計	三六〇、六九八圓	六、傳染病院費	九、三四七圓
經常部		七、汚物掃除費	九、〇一二
一、會議費	二、九七二	八、衛生諸費	四七〇
二、役所費	五七、三八七	九、公園費	二、三二五
三、土木費	二、八二一	一〇、墓地費	五七
四、教育費	一〇五、七二九	一一、火葬場費	一、六二九
五、傳染病豫防費	六八三	一二、勸業費	三、〇一九
一三、社會事業費	三、四四二	二、都市計畫費	五、一五〇
一四、警備費	四、七三八	三、地方改良費	七二〇
一五、基本財産造成費	三	四、公債費	一三、九二六
一六、財産費	一、四三八	五、運用金戻入	九三二
一七、諸税及負擔	一、三九六	六、寄附金	三、一六三
一八、報時費	三〇二	七、補助費	七、三五三
一九、公金取扱費	二二〇	八、負擔金	七五〇
二〇、奬勵費	五〇〇	九、土地買收反當地費雜支出	二七、八二四
二一、雜支出	六九九	一〇、祝賀費	一、五〇〇
二二、豫備費	二、八〇〇	特別會計	
臨時部		水道費	五六、三三〇
一、土木費	一三〇、八一九	公益質屋費	一〇、五二六
	五一、四五一		

養老救濟費	二、六四七
罹災救助資金	一、〇四一
新溪園保繕積立金	五〇一
鶴形山公園維持資金	二三三
功勞者篤志善行者表彰基金	六三
總計	四二、八五八

諸稅負担の狀況は左表の通りである。

種別	稅額	一戶負担額	一人負担額
直接國稅	四五、〇六一、三三圓	七四、四四九圓	一五、五八五圓
直接縣稅	二五九、三二一、一五	四〇、六七二	八、五一四
市稅	二四五、一二八、三三	三八、四一三	八、〇四一
合計	九九九、七一〇、八一	一五三、五三四	三二、一四〇

第三章　産業

職業別狀態、生産狀態、倉數商工會議所、商工業組合、會社工場、銀行、産業組合、市場、特産品と倉數名物

職業別狀態　本市の現住戶數を職業別にして見ると、商業戶數最も多く、工業戶數之に次ぎ、農家また之に次ぐ、次に最近調査の統計を掲げる。

現住戶口職業別狀態　（昭和三年末調）

職業別	專業戶數	兼業戶數	計	專業人口	兼業人口	計
商業	一、六〇九戶	四三八戶	二、〇三七戶	七、七〇〇人	二、〇四八人	九、七四八人
工業	一、二五四	五〇八	一、七六二	六、〇〇二	二、四三一	八、四三三
農業	一、〇八七	二七	一、一〇四	五、二〇六	一、〇三七	六、二四三

水産業	五	三	八	二四	一四
庶業其他	九三	二七三	一、一九四	四、三五五	一、三〇〇
無職業	七六	—	七六	三六四	—
合計	四、九三三	一、四二八	六、三八一	二三、六五一	六、八三〇

			三八
			五、六五五
			三六四
			三〇、四八一

生産狀態

次に生産の狀態を見るに工産の發展著しきものがある。

年次	工産額	農産額	生産總價格
大正元年	三、二七八、三八一圓	六九、二八〇圓	三、八四七、八〇八圓
大正十年	四、四三七、一三八	一、五三五、六一七	九、九三、五三七
昭和二年	一五、八〇六、〇四一	一、二四七、〇〇三	一七、一九五、八七七

試みに昭和三年分の生産に就いて生産年額拾萬圓以上のものを擧げて見ると（單位千圓）

綿糸	一〇、〇六八千圓	蔘	一六〇千圓
金巾	二、七二一	花莚及疊表	一五〇
米	六七八	醬油	一三六
綿帆布	五五〇	酒	一三一
撚糸	二七六	蘭草	一〇七
蝿取紙	二六四		

なほ詳細は左表の通りである。

生産

一、農産物

（昭和二年分）

種別	作付反別	收量	價格
米	九〇〇、二反	一三、八五五石一	七八〇、六六四圓

糯米	七七、一	一、九六六石	一〇五、八八〇	
蘭草	六二、一四	一八九、〇七二貫		
小麥	三三〇、七	六、三四九石	一五六、二五九	
裸麥	一五七、一四	二、八九七石		
大豆	一五、六	二、六五一石	四、五〇五	
干瓢	一、八	六三〇貫	二、二〇〇	
蠶豆	一七、二	二三七石	三、七九〇	
漬菜	五、三	三四、四五〇貫	二、〇六七	
胡瓜	三、二	一六、〇〇〇貫	三、二〇〇	
甘藷	一、四	一四、〇〇〇貫	二、一〇〇	
西瓜	一三、九	九七、三〇〇貫	一七、五一四	
越瓜	二、六	一八、二〇〇貫	四、五五〇	
茄子	五、一	五、一〇〇貫	六、二二〇	

蓮根	四二、五	二五五、〇〇〇貫	六三、七五〇	
薄荷	三八、五	六二、六〇〇貫	二四、六四〇	
大生根	九、五	六六、五〇〇貫	三、九九〇	
其他	—	—	三七、二七八	
計			一、三二八、五二七	
桃	—	一三、六二〇貫	七、〇七七	
梨	—	六、八二〇貫	四、九七四	
柿	—	六、三五〇貫	三、八二〇	
葡萄	—	一九、七五五貫	七、九〇二	
其他	—	—	四、七一三	
計			二八、四七六	

二、水産及水産製造物

種別	收量	價格
鮎	一六〇貫	四八〇圓
鮒	四〇〇貫	四〇〇
ハエ	六〇貫	六〇

種別	收量	價格
蒲鉾	三、一五〇貫	七〇、七三〇圓
其他	二九貫	一八一
計		七一、八五一

三、蠶業及畜産物

種別	收量	價格
蠶繭	四、四〇〇貫	二四、二九五圓
牛乳	一六〇石	一、一〇〇

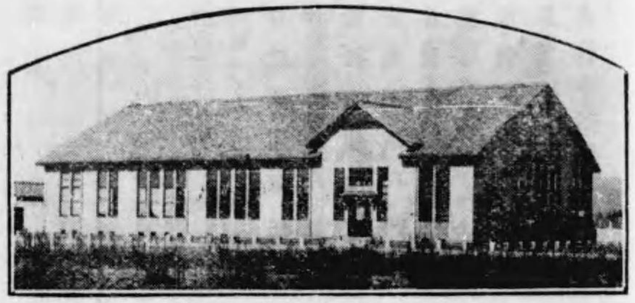
種別	收量	價格
其他	—	三五、四七七圓
計		七〇、九七二

四、工産物

種別	收量	價格
綿糸	二、〇四一、五一〇貫	一〇、九五八、二九六圓
金巾	一九、六四八、六〇七碼	二、六三七、八二九
綿帆布	一、四六〇、七〇五碼	五四〇、四六一
袋物	九七、五四一枚	一五、六〇六
撚糸	五八、六八〇貫	二五七、五〇三
蝿取紙	一〇、〇〇〇、〇〇〇枚	二一〇、〇〇〇
製綿	一六、七〇〇貫	三五、七一〇
疊表	七五、四二〇枚	四七、七二三
花莚	一三、四〇〇本	一〇七、二〇〇
麺麭類	—	一八、〇〇〇
酒	一、六五〇石	一三一、二〇〇
醤油	二、八〇〇石	一二六、〇〇〇
藥品	一六、五〇〇磅	一九、五〇〇
足袋	六七、二〇〇足	一三、五一〇

種別	數量	價格
車輛	八八台	四、七九五圓
下駄	—	二四、七五〇
麻裏	二五〇、〇〇〇足	六二、五〇〇
指物類	—	五〇、八五〇
竹細工	—	二、四〇〇
靴	—	一八、五〇〇
賣藥	—	二、二〇〇
石細工	—	五、六〇〇
取卸薄荷	七、二〇〇斤	五〇、四〇〇
清涼飲料水	—	六九、三〇六
製氷	三二五、〇〇〇貫	三七、八〇〇
味噌	三、八五〇貫	三、〇八〇
野草莚	九、〇〇〇本	一九、八〇〇
生餡	八、五〇〇貫	八、五〇〇

麵（米及麥）	五、〇〇〇	—	葉製品	五七、八九〇	—
蒟蒻	五、一〇〇	—	亞鉛鉄力細工	一三、四〇〇	—
菓子	七、八〇〇	—	炭團煉炭	一二、五〇〇	—
洋服	四八、〇〇〇	—	印刷製本	五三、五〇〇	—
豆腐油揚	二五、一〇〇	—	傘	六、一五〇	—
生饅飩	二一、一〇〇	—	紙製品	三、〇〇〇	—
桶樽類	一三、一〇〇	—	其他	二〇、三八八	—
漬物	二、六〇〇	—	計	一五、八〇六	—
酒醬油、釀造粕	三、六八五	—	生產總計	一七、一九五、八七七	—



倉紡本店

倉敷商工會議所　商工業機關として大正八年六月倉敷經濟協會組織せられ、會員約三百、基本金壹萬數千圓を有し、主として商工會議所と同一の事業を行つてゐたが、市制施行に伴ひ、新に倉敷商工會議所の設立を見るに至り、經濟協會は解散した。

商工會議所の主なる役員は次の如くである。

會頭　大原孫三郎氏
副會頭　大橋平右衛門氏
同　森田源二氏

商工業組合　同業組合一、準則組合十六。

(1) 同業組合

組合名	事務所所在地	組織	設立年月
中備薄荷同業組合	濱田町	製造業者 販賣業者	大正二年六月

組合名	事務所所在地	組織	設立年月
倉敷菓子製造販賣業組合	濱田町	製造業者、販賣業者	大正十一年十月
倉敷メリヤス雜貨商組合	阿知町	販賣業者	大正十五年九月
倉敷吳服商組合	本町	販賣業者	大正十二年二月
倉敷髯察署管内理髮業組合	濱	理髮業者	大正十三年七月
倉敷藥種商組合	本町	藥種商	大正十四年八月
倉敷洋服商組合	西本町	洋服業者	大正十四年九月
倉敷宿屋商組合	旭町	宿屋業者	大正十五年五月
都窪郡古物商組合	新川町	古物商	大正元年
倉敷印刷業組合	戎町	印刷業者	大正十五年一月
倉敷金物商同業組合	東町	金物商	昭和二年五月
倉敷小間物商組合	阿知町	小間物商	昭和二年三月
倉敷白米商組合	砂越町	白米商	大正十四年四月
倉敷精肉商組合	戎町	精肉商	昭和二年二月
倉敷履物商組合	濱田町	履物商	昭和二年九月
倉敷青果砂糖、乾物業組合	阿知町	販賣業者	昭和二年十月
倉敷自轉車業組合	戎町	販賣業者	昭和二年十月
倉敷酒商組合	東町	釀造及小賣業者	昭和四年三月

會社 現在、市内に本店を有する會社數二十二また市内にある會社支店及び出張所數十六である。

會社（本店）

會社名	所在地	資本金	拂込額
倉敷紡績株式會社	旭町	一五、二〇〇、〇〇〇円	三、三五〇、〇〇〇円
倉敷絹織株式會社	旭町	一〇、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇
奬農土地株式會社	新川町	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

日本莚業株式會社	旭町	一、〇〇〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
倉敷鉄道株式會社	榮町	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
倉敷瓦斯株式會社	榮町	三〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社倉敷魚市場	船倉町	二〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
內田繁造合名會社	本町	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
楠戸合名會社	濱	一〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
倉敷合同運輸株式會社	榮町	五〇〇、〇〇〇	四七、四〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社倉敷劇場	阿知町	五〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合名會社宇野商店	仝	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社倉敷劵番	西榮町	一〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
倉敷自動車株式會社	榮町	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合名會社中備敷物商會	船倉町	二二五、〇〇〇	二二、五〇〇	〇〇〇、〇〇〇
備南石油合資會社	土手町	二二五、〇〇〇	二二、五〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合資會社岡野商店	西榮町	二二〇、〇〇〇	二二、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合資會社阿知舘	榮町	二〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇

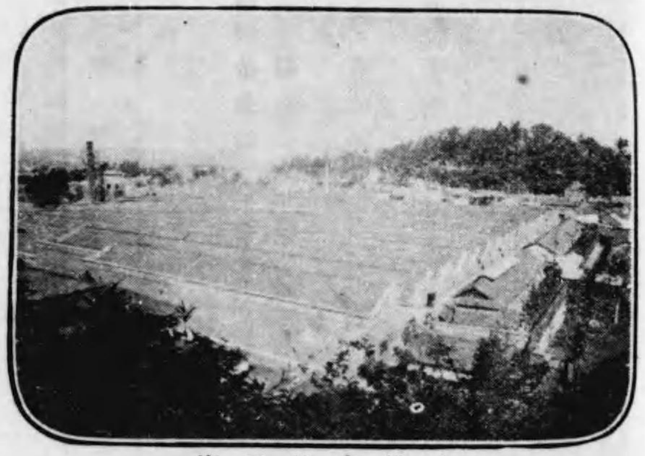
株式會社倉敷千秋座	新阿知町	八五〇、〇〇〇	八、五〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合資會社原岸商店	榮町	五〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
谷本繩莚合資會社	四本町	三〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
合資會社三宅商會	御幸町	三〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇

仝（支店）

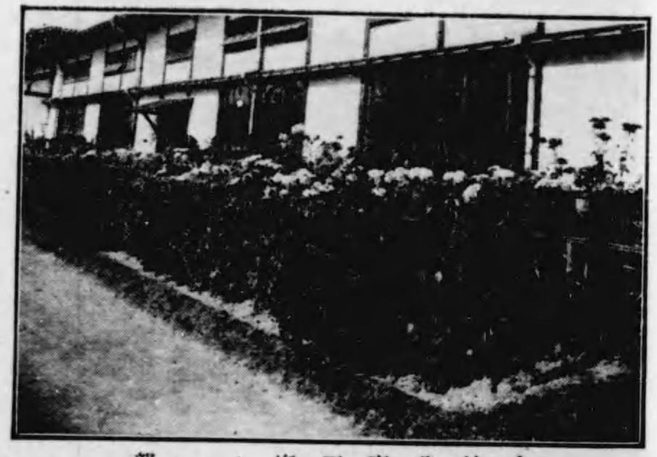
株式會社安田銀行倉敷支店	戎町	一五〇、〇〇〇、〇〇〇	九二、七五〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
中國合同電氣株式會社倉敷營業所	本町	三一、〇〇〇、〇〇〇	二五、八六七、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社第一合同銀行倉敷支店	仝	一四、八〇〇、〇〇〇	六、五五五、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社山陽銀行倉敷支店	阿知町	二、〇〇〇、〇〇〇	三、二九、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社岡山合同貯蓄銀行倉敷支店	榮町	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
株式會社中備銀行倉敷支店	阿知町	一、〇〇〇、〇〇〇	三二、九二〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
福山撚糸紡績株式會社倉敷支店	御船町	一、〇〇〇、〇〇〇	四七、五〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇
兩備倉庫株式會社倉敷支店	榮町	一、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇

岡山商事株式會社倉敷出張所	戎町	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
株式會社林源十郎商店倉敷支店	本町	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
岡山タクシー自動車株式會社倉敷支店	榮町	一五六、〇〇〇	一五六、〇〇〇
岡山盧元賣株式會社倉敷支店	戎町	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
合資會社岡山金融無盡商會倉敷出張所	濱田町	一〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
淺野合名會社倉敷支店	榮町	二〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇
合名會社北村電氣商會倉敷出張所	榮町	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
黑川木材株式會社倉敷支店	御船町	二〇〇、〇〇〇	六五、七六〇

工場 昭和二年末の調査によるに、工場は倉敷紡績株式會社の倉敷工場、萬壽第一工場、仝第二工場を初めとして、その數すべて二十七、從業員三百三十三、職工數三千七百四十六である。これを業態によつて分類すると左表の通りである。



倉紡倉敷工場



倉紡萬壽工場ノ一部

（昭和三年末現在）

職業別	工場數	職工數 男	職工數 女	職工數 計	從業員數
紡績	八	六、五五二	二、三六六	八、九三八	九四
製綿	一	五	二	七	一
花莚製造及加工	六	二七	三〇	五七	一
野草莚製造	二	八	二四	三二	—
製繩	一	二	三	五	—
ハイトリ紙製造	一	二一	六六	八七	八
酒造	三	二三	一	二三	三
清涼飲料水製造	一	一〇	二	一二	一
發電	一	二	一	三	三
印刷	一	七	一	一	一
荷車製造	二	一五	一	一五	一
計	二七	八二三	二、二九一	三、一〇四	二二

更にその工場名、所在地、主なる生産品名を示せば左表の通りである。

工場一覽

（昭和三年末現在）

工場名	所在地	生産品名
倉敷紡績株式會社倉敷工場	向市場	綿糸
仝　萬壽第一工場	千歳町	綿糸
仝　萬壽第二工場	萬壽通	綿糸、綿布
仝　本店實驗所	旭町中通	綿糸、綿布
福山撚糸紡績株式會社倉敷支店	御船町	撚糸
三宅撚糸工場	新阿知町	撚糸
惠藤織物工場	濱	帆布
石井織布工場	福井	袋地、前掛地
西藤製綿工場	御船町	綿

日本莚業株式會社加工部	濱榮町	花莚加工
岡本花莚工場	西榮町	花莚加工
香川捺染工場	戎町	花莚加工
秋岡花莚工場	大島	花莚
貝原花莚工場	福島	花莚
近藤花莚製造工場	富井	花莚
三宅商會野草莚製造工場	御幸町	野草莚
小松原野草莚製造工場	船倉町	野草莚
谷本縄莚合資會社工場	西本町	縄
カモ井ノハイトリ紙製造所	西榮町	蠅取紙
森田酒造株式會社工場	東町	酒
白神酒造場	福井	酒
日下酒造場	沖酒	

倉敷絹織工場全景

原田ラムネ工場	濱田町	清涼飲料水
中國合同電氣株式會社倉敷發電所	船倉町	電氣
杉原活版印刷工場	戎町	印刷
片岡荷車製造工場	榮町	荷車
野口製作所	御幸町	荷車

因に倉敷絹織株式會社の人造絹絲大工場は最近市外中洲村に新築され、すでに事業を開始してゐる。

銀　行　市内にある銀行は左の通りである。

銀　行

（昭和三年末現在）

銀行名	所在地	創設年月
株式會社第一合同銀行倉敷支店	本町	大正八年十月
株式會社安田銀行倉敷支店	戎町	大正十年四月
株式會社山陽銀行倉敷支店	阿知町	昭和三年五月
株式會社岡山合同貯蓄銀行倉敷支店	榮町	大正十五年十月
株式會社中備銀行倉敷支店	阿知町	明治三十年四月

産業組合　産業組合は八、次の通りである。右の内、倉敷信用組合は最近市街地信用組合の認可を得たから、將來一層の活動を見るであらう。

産業組合

（昭和二年度末現在）

種別	組合人員	出資金	拂込資金	積立金	借入金	計
新田信用販賣購買利用組合	一四〇人	一八、六〇〇圓	七、八一三圓	三、三五三圓	—圓	一一、〇六五圓
倉敷信用組合	九一五	二六、一三〇	二六、一三〇	二、七一一	—	二八、九三一
倉敷購買利用組合	三、八	六、六三三	六、六三三	一、五三一	七二、一二八	八〇、四三七
福島信用販賣購賣組合	五六	一、四七〇	一、四七〇	二九一	—	一、七六一
信用購買販賣利用組合萬壽奬産社	一七四	二、〇一〇	二、〇一〇	三七	—	二、〇五七
大倉信用購買販賣組合	二九五	九、一一〇	九、一一〇	三、六一一	三、二九〇	一六、〇一一
大高信用販賣購買利用組合	一九六	三、九二〇	二、七二三	五、八九二	—	八、六一四
富福信用販賣購買利用組合	二八七	二一、八五〇	五、四九八	八、〇六九	七、五〇〇	二一、〇六七

市場　魚市場二、青物市場一、家畜市場一。

(1) 魚市場　株式會社倉敷魚市場は船倉町に、鴨井鮮魚郡は前神町にある。

(2) 青物市場　倉敷青果市場は新川町にある。

(3) 家畜市場　倉敷定定期家市場は川西町にある。倉敷市、都窪郡、吉備郡、兒島郡の郡市畜産組合聯合會の設立で、市日は毎月三、六の日である。

特産品と倉敷名物　地方特産品には綿絲、綿布、人造絹絲、花莚、疊表其の他の藺草製品、野草莚（クレックス）、カモヰのハイトリ紙、蒲鉾、清涼飲料水、麻裏等があり。倉敷名物には酒津燒、菓子むらすゞめ、小町餅、桃、梨、葡萄等の果物、四十瀬西瓜、大高蓮根、八ッ塚大根等がある。

第四章　教育

學齡兒童と就學歩合、學校幼稚園、全國初等教育研究會、倉敷圖書館、倉商青年講座、實力檢定試驗、修養及教化團体

學齡兒童と就學歩合　近時市の發展に伴うて學齡兒童も逐年其の數を增加しつゝあるが、學校施設の完備と學校教育助成機關の活動と相待つて、相當の成績を擧げて居る。

學齡兒童　（昭和三年四月調）

種別	男	女	計
就學の始期に達したるもの	一、八四三	一、七二五	三、六一八
就學の始期に達せざるもの	三一三	二七	五九九
合計	二、一五五	二、〇五二	四、二〇七

尋常小學校の教科を修むるもの	一、三三三	一、二八九	二、六二二
尋常小學校の教科を卒へたるもの	五一三	四七八	九九一
合計	一、八三六	一、七六七	三、六三五
就學歩合			九九・五八

學校幼稚園　幼稚園三、別に「若竹の園」がある。小學校三、實業補習學校三、青年訓練所三（但し以上二種は各小學校に併設）右のうち倉敷尋常高等小學校は三部に分れ、現在では尋常科一、二、三學年を新川校舍に置いて、之を第二部とし、尋常科四、五、六學年を旭町校舍に置いて、之を第一部とし、高等科一、二學年を同じく旭町校舍に置いて、之を第三部としてゐる。なほ旭町校舍内に倉敷家政女學校を併設してゐる。其の他に難波女學校、岡山縣倉敷商業學校、岡山縣倉敷高等女學校がある。

學校幼稚園

（昭和三年四月現在）

名稱	設立別	位置	組數	學級數	保姆教員指導員數	在籍數	創立年月
倉敷幼稚園	市立	砂越町	一	四	五	一六〇	明治二十九年九月
竹中幼稚園	私立	旭町	二	二	五	七九	大正十一年九月
御國幼稚園	私立	阿知町	二	二	四	六五	昭和四年四月
倉敷尋常高等小學校	市立	旭町	二	二	五〇	二、一〇〇	明治二十年四月
萬壽尋常高等小學校	市立	濱	一八	一八	二〇	九一〇	明治二十三年四月
大高尋常高等小學校	市立	沖	一六	一六	二〇	七九九	明治二十年四月
倉敷實業補習學校	市立	旭町	二	二	八	四五	大正十一年四月
萬壽實業補習學校	市立	濱	五	五	六	九六	大正八年五月
大高實業補習學校	市立	沖	四	四	七	一七四	大正十年四月
倉敷青年訓練所	市立	旭町	二	二	七	九〇	大正十五年七月

萬壽青年訓練所	市立	濱	二	五	四五	仝
大高青年訓練所	市立	沖	三	六	九六	仝
倉敷家政女學校	市立	旭町	二	五	三〇	大正十三年四月
難波裁縫女學校	私立	旭町	三	五	一三〇	大正十二年二月
岡山縣倉敷商業學校	縣立	新川町	三	二六	五八六	明治四十五年三月
岡山縣倉敷高等女學校	縣立	旭町	二五一	二八	吉三〇	明治四十年四月

教育助成機關に關しては第二章を參照されたい。

倉敷圖書館　大正十三年六月、今上陛下御成婚記念として計畫を立て、有志醵金六千餘圓外に倉敷紡績會社より圖書一千餘册の委托を受けて設立したもので、現在藏書册數雜誌を除き三千五百五十七册。昭和二年度閲覧人員男子二千七百五十四人、婦人三百七十五人、兒童五千二百三十四人、男女青年團のための巡回文庫千三百一人、計九千六百六十四人といふ成績を示してゐる。所在地旭町校舍內。

倉商青年講座　本講座は倉敷商業學校が現代文化に取殘されんとする青年を救はんが爲に設けたもので、一回毎に實生活に役立つ纒つた知識技能を習得しながら、回を重ねるに從つて組織立つた、しかも深みのあるものに築き上げようといふ目的で、毎月第一、第三水曜日の夜間、同校內に開催し、一般に開放してゐる。聽講者の多くは毎回缺かさず出席し、殆んど組織的夜間商業學校の觀を呈してゐる。昭和二年十月の創設である。

實力檢定試驗　倉敷商業學校は又成規の商業教育を受くる能はざる者の爲に毎年一月五月九月の三回實力檢定試驗を行ひ、試驗科目は國語、數學以下十三科目とし、各之を第一期、第二期、第三期に區別し豫め要目を掲げ參考書を定め、三期とも合格したる者には當該科目に就きては五ヶ年程度の商業學校卒業以上の學力あるものと認むる旨の檢定証書を與へて居る。この制度は大正九年から設けたもので、學校の信用と相俟つて、有爲の青年の進路を開いてゐる。

修養及教化團体

(1) 青　年　團

事項	倉敷青年團	萬壽青年團	大高青年團
創立年月日	大正五年十一月三日	明治四十三年二月十一日	明治四十一年三月一日
區域	倉敷市倉敷一圓	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島	倉敷市、安江、沖、富井、福井、四十瀬、老松、白樂市、西中新田、笹沖、吉岡
役員	三六	一七	一三
賛助員	九七	三〇	三三
支部數	一六	一三	一五
團員數	四二〇	二五〇	三〇四
基本財産	一、一〇〇圓	六〇〇圓	七二〇圓
經費	三九六圓	二八〇圓	三七七圓
事業概要	倉敷圖書館經營 武道練習 公民講座 入退營兵士報告祭 休育會	通俗圖書館經營 巡回文庫經營 講演會 見學旅行 体育會 活動寫眞會 水火防 入營者送別會	辯論會 講習會 團誌發行 見學旅行 文庫經營 青訓實補出席奬助 通俗講演會 體育會

(2) 女子青年團

事項	倉敷女子青年團	萬壽女子青年團	大高女子青年團
區域	倉敷市倉敷一圓	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島	倉敷市、安江、沖、富井、福井、四十瀬、老松、白樂市、西中新田、笹沖、吉岡
役員	八	三〇	三五
賛助員	〇	一九	六
支部數	一六	一二	一五
團員數	四七〇	二二八	二五三
經費	一九二四	五〇圓	七六圓
事業概要	講演會 講習會 見學旅行 敬老會 廻送文庫 兒童健康相談手傳	通俗講演會 講習會 他郡市優良團視察 團員團体旅行 體育會 生活改善	講習會 他郡市優良團視察 會員相互修養會 農繁托兒所ノ手傳 文集編纂 敬老會

水火防
敬老會

(3) 婦人會

事項	倉敷婦人會	萬壽婦人會
創立年月	明治三十六年四月	大正十二年四月
區域	倉敷市倉敷一圓	倉敷市、濱、富久、平田、大島、福島
役員	一四	五〇
會員數	四〇〇	四〇〇
經費	二〇〇圓	二一〇圓
事業概要	講演會　講習會 見學旅行　生活改善 老人慰藉　兒童愛護	講演會　家事講習會 活動寫眞　團体旅行 敬老會　健康兒診斷及表彰　パンフレット發行

(4) 特殊團体

右は一般的な團体であるが、なほ外に、倉敷さつき會、倉敷文化協會をはじめ、十有餘の特殊團体である。

全國初等教育研究大會　これは倉敷尋常高等小學校年中行事の一である。

學習研究と國民的人格教育とを以てその名を全國に知られたる倉敷小學校は、旭町校舍及び新川校舍を有し、學級數四十餘、兒童數二千、教員數五十餘、特別教室七（講堂、唱歌及圖畫、理科、理科準備室、工業及家事、裁縫室、兒童室、體育館）特別設備五（奉安所、圖書館、學習動物園、學習植物園、溫室）經費年額五萬餘圓、縣下有數の學校である。

倉敷小學校はその施設を學的根據のもとに經營せんがため、兒童教育研究會を設け、全國的權威ある學者を顧問とし、不斷の研究をしてゐる。而して之が事業の一として毎年一回教育研究大會を開催してゐるのである。

第一回　大正十一年十一月　二五〇名（岡山縣）

第二回　仝　十二年六月　三七〇名（岡山、廣島、香川）

第三回　仝　十三年十一月　一、二二三名（三十三府縣）
第四回　仝　十四年十一月　一、三〇〇名（三十五府縣）
第五回　仝　十五年十一月　定員　一千名（二十八府縣）
第六回　昭和二年十月　定員　百五十名（三十府縣）

右の内第三、四、五回は全國初等教育研究大會、第六回は全國小都邑學校經營研究會である。

第五章　社寺宗教

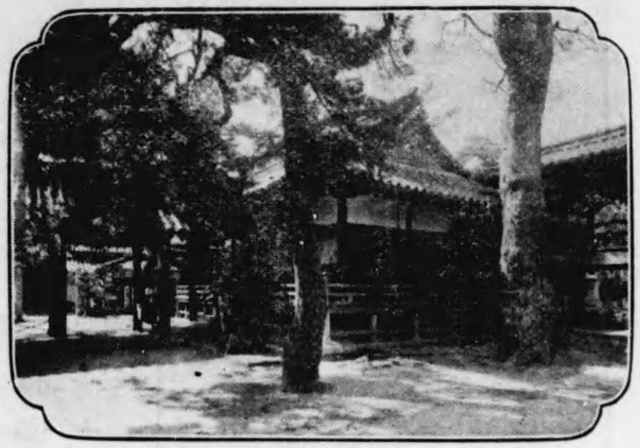
倉敷市には神社が十九、寺院が十一、教會が十ある。今之を表に示せば左の如くである。

種別					
縣社	郷社	村社	無格社	計	
神社	一	一	七	一〇	一九
寺院	眞言宗	天台宗	淨土宗	曹洞宗	眞宗	日蓮宗	計
	五	一	二	一	一	一	二
教會	天理教	金光教	黒住教	大師教	基督教	計	
	五	一	一	一	二	一〇	

一　神　社

縣社足高神社、郷社阿智神社、村社

縣社足高神社　笹沖の足高山に鎮座、祭神は大山津見命で、石長比賣命木之花佐久夜比賣命を配祀してゐる。創立年代は詳でないが、崇神天皇の御代の勸請と言傳へ、延喜の制式内小社に列せられ、備中國十八社の一の古社である。本社を帆下げの宮と呼ぶ由來は前に說いた。神寶に獅子頭一對、高麗犬一對があつて、獅子頭は花園天皇の奉納とも村上彥四郎義光の奉納とも言傳へられてゐるが、星霜を經て酷く破損し、今は一對の半面があるばかりで、寛永八年新に一對を購入した。高麗犬は延元年中村上彥四郎義光が義兵を募りにこの地方に來た時、笹沖の海上で颶風に會ひ、神明に祈つて忽



縣社足高神社

ち風波靜まり、上陸募兵を終へて奉獻したともいひ、建德年中今川貞世（了俊）が九州下向のとき戰捷を祈り、歸途報賽のため奉納したとも言傳へられる。

村上天皇の御宇天曆元年二月十六日奉幣使藤原兼成卿參向あり、翌二年天皇不思議の御靈驗御感あらせられ神殿御造營、御有紋の御幕勅書等御奉納になつた。舊幕時代には領主鴨方池田家の祈願所で、相續の時には必ず參詣あり、明治三年には有紋の幕一張を奉納せられた。

社側に天保十五年建設當社由緒の碑がある。篆額は野之口隆正の題で「アシタカノカミノヤシロ」と書き、文は平賀元義の選で掛くるに長歌一章を以てした珍しいものである。（書は播磨の人赤松某）

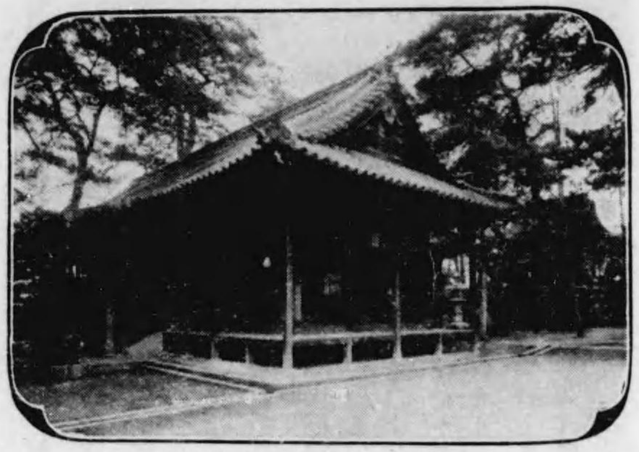
八隅しし我が大君の、　聞召す島のことゞ、
神はしもさはにませれど、　この島のこのすめがみは、
そきだくも尊き神の、　こきばくもかしこき神と、
いにしへゆいひこし神ぞ、　たふとみて仕へまつらへ、
かしこみてつかへまつらへ、　天地と日嗣と共に、

よろづよまでに。

この地昔は海島であつたが、今は田畴の間に立ち、社殿宏壯、本殿、釣殿、幣殿、拜殿、神饌殿、本廊下、西廊下、敎殿（繪馬殿）社務所、假屋、神庫等があつて、頗る風致に富み、境内千三十坪、四周の山林二町九反一畝二十七歩も亦神域に編入せられてゐる。

境内末社四社、須佐之男神社、意富加牟豆美神社、稻荷神社、石上神社。

鄕社阿知神社　市街の中央鶴形山に鎭座。祭神は多紀理毘賣命、市杵島比賣命、多岐都比賣命即ち宗像の三神で相殿に應神天皇を奉祀してある。なほ明治四十三年六月七日倉敷町所在の諸神社（十二社）をすべてこゝに合祀した。當社の由來を案ずるに、昔神功皇后三韓征伐の時、此の海面を御渡航の際、暗夜にて水尾筋不分明の折柄、皇后宗像の神を御祈願あらせられ、御感應にや三振の劍天降り海上光り輝き、御船は恙なく水島へ向けて御下りになつた。これ即ち明劍のこの山に留りたまうたいはれであつて宗像三女神三体明劍と崇め氏神として齋き祀つたと言傳へられる。天曆年間正三位下參議兼備中權守小野好古備中征伐の節參拜あり、その頃より山の名を笹岳山又は龜山ともいつた。寛永の頃神佛混淆して一時宮を妙



鄕社阿知神社

見宮、山を妙見山といつたが、維新の際神佛引分となつて、神社の方は、往古この地方を阿知の里と稱したところから阿知神社と改稱し時の倉敷縣知事伊勢氏華が社名の扁額を認めて献納した。又山の名はその後鶴形山と改稱した。これより先小堀遠江守政一支配の節殊に崇敬あり、元祿五年久世大和守支配中始めて御神幸の神事あり、代々の代官尊敬厚く、寛政二年には代官菅谷長昌、同四年には代官野口直方、同十三年には代官柘植竹苞三代相次いで石燈籠を奉献した。これは御本殿の向つて左側に三基相並んでゐる。又これと相接して久邇宮朝彦親王殿下御筆の畫神の碑がある。

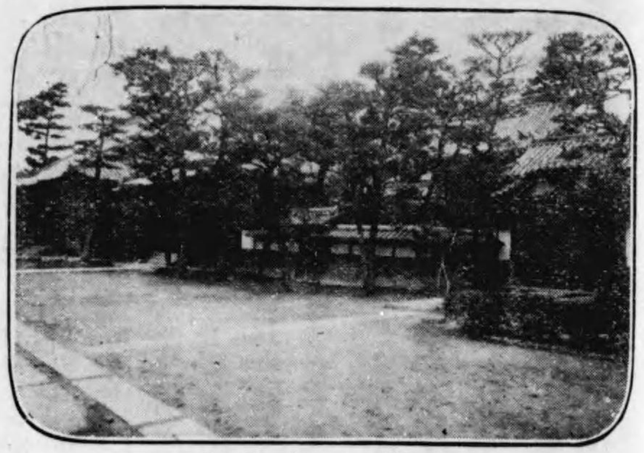
社殿は文祿、元和、寛永、天和、元祿、寛延、安永、寛政天保、明治、と度々の造營修覆に成つたもので、本殿、推門

鈞殿、幣殿、奏樂殿、拜殿、隨神門、繪馬殿、能樂殿、神庫、末社、菅原神社、荒神社、社務所等がある正面の南參道は寛政年間の造營で石階百數十段の内、下の八十一段、上の五十九段は全部一枚石を用ひた堂々たるものであつて他にあまりその比を見ない。境内七百十五坪老杉古松神韻を奏で、四望廣濶、外園は即ち鶴形山公園である。

村社 村社すべて七左の如くである。

(1) 春日神社 濱にある。祭神は經津主神、武甕槌神、天兒屋根命、比賣大神、即ち春日四神。
(2) 春日神社 一に山王春日神社といふ。富久にある。祭神は大山津見命並に春日四神。
(3) 御崎神社 富久にある。社神は吉備津彦命。
(4) 三社宮 富久にある。祭神不詳。
(5) 能野神社 福島にある。舊時十二社權現といふ。祭神は天照大神外十二神。
(6) 御崎神社 安江にある。祭神は吉備津彦命。
(7) 八幡神社 老松にある。祭神は應神天皇。

外に境外無格社が十社ある。



寶壽山觀龍寺

二寺院

觀龍寺、地藏院、青蓮院、圓福寺
善福寺、大樂院、誓願寺、法然寺
長蓮寺、敎善寺、本榮寺

觀龍寺 寶壽山觀龍寺は本町にある。眞言宗古義派。本尊大日如來。寛和元年堯盛津師開基。文祿三年十六世杲儀現在の地に規模を定め、延享元年燒失、寛延二年再建。初め北斗山寶城院と稱したが、二十一世兆譽の時寶壽山觀龍寺と改めた。境内に大師堂、位牌堂、妙見堂、鎭守堂等がある。

地藏院 青龍山井上寺地藏院は阿知町にある。眞言宗古義派。本尊地藏菩薩。もと足高神社別當寺の一であつたが、天正十三年開基勢海法印が日吉の新開地に移し、貞享年中秀

巖法印が更に今の所に移した。後備前侯池田繼政の尊信を得て、八間四面棟造の本堂、大師堂、庫裡、鐘樓門、客殿等を寄附されたが、明治二年本堂燒失、今の本堂は明治四十四年廢寺玉泉寺の堂宇を移して建てたものである。私立御國幼稚園は茲に在る。

靑蓮院　摩尼山西方寺靑蓮院は白樂市にある。眞言宗古義派。本尊阿彌陀如來。もと足高神社別當寺の一で、安樂坊といつたが、寛文年中今の所に移つて改稱したものである。

圓福寺　壽量山圓福寺は沖にある。眞言宗古義派。本尊阿彌陀如來。天文五年宥譽阿遮梨の中興開山である。

善福寺　龍王山善福寺は四十瀨にある。眞言宗古義派。本尊阿彌陀如來。もと山手村の平山にあつたが、いつの頃かこゝに移したものである。

大樂院　大樂院は富久にある。天台宗自門派。本尊藥師如來。聖護院流の山伏寺である。

誓願寺　佛光山成親院誓願寺は本町にある。淨土宗鎭西派。本尊阿彌陀如來。應永三十一年善慶上人の開基で、元和年中策傳上人廢を興し、尊譽上人その緒をついで中興した。境內觀音堂には新大納言成親の守本尊であつた十一面觀世音菩薩を安置し、鎭守堂には天滿天神を祀つてある。

法然寺　無量山法然寺は濱にある。淨土宗鎭西派。本尊阿彌陀如來。開山不詳、古老の口碑には法然上人が讃岐國に遊化の時、たゞ〳〵錫をこゝに留められたので寺號としたといふ。天正十二年念譽理廓上人の中興ともいひ、或は誓願寺策傳の建立ともいふ。

長蓮寺　五台山長蓮寺は船倉町にある。曹洞宗。本尊釋迦如來。境內に觀音堂がある、天正年中毛利元就創建、文祿年中燒失、寶曆十二年、時の代官淺井作右衛門道尹再興、爾來世々代官の菩堤所となつてゐた。現に代官幷に屬吏の墓が數十基ある。

敎善寺　淸江山敎善寺は船倉町にある。眞宗本願寺派。本尊阿彌陀佛。延德二年六月創建、或は明應元年ともいふ。開基敎圓俗稱千葉左衛門督忠氏。初め向山の頂、愛宕にあつて金光堂と號し、後山麓向市場に移つて南の坊と呼ばれ、寛永年中中興して敎善寺と改めた。寶曆年中燒失、安永七年今の所に再建した。

境內楓林中に節齊森田翁招魂碑、森田阿孟の墓があり、寺のすぐ上に遠州井がある。

本榮寺　長興山本榮寺は弓場にある。日蓮宗。本尊首題寶塔。元弘年中大覺大僧正足高山の寺谷に妙法山蓮華寺を建て、寛永二年に至り、日受上人倉敷に移轉し、長興山本榮寺と改め、法兄日悟上人を以て開山とした。鎭守堂には清正公が祀つてある

境内墓地には岡雲臥をはじめ、鶴汀延年等岡氏一門の墓がある。

三　教　會

神道教會、佛教教會、基督教會

教會の數すべて十、これを大別すれば神道教會七、佛教教會一、基督教會二である。

神道教會

(1) 天理教芦津大教會笠岡分教會玉島支教會鶴形山宣教所　旭町にある。教徒三、信徒二四一、教師一

(2) 同窪屋宣教所　濱にある。教徒三一、信徒八三七、教師一。

(3) 同都倉宣教所　戎町にある。教徒三、信徒二四三、教師一。

(4) 天理教岡山分教會倉敷支教會　西大町にある。教徒一三、信徒一九三二、教師一。

(5) 同倉敷宣教所　新阿知町にある。教徒一五、信徒二一四、教師一。

(6) 金光教倉敷教會所　若松町にある。教徒六二、信徒八一二、教師一。

(7) 黑住教倉敷教會所　上新川町にある。信徒二〇〇〇、教師三八。

佛教教會

(1) 高野山大師教會倉敷支部　本町觀龍寺境内にある。教徒一、信徒二五〇、教師一。

基督教會

(1) 日本組合基督教會倉敷基督教會　旭町にある。信徒三八四、教師一。この中に私立竹中幼稚園がある。

(2) 基督教救世軍小隊　濱にある。教徒二、信徒二四、教師二。

第六章　名勝舊蹟

一　名勝

新溪園、鶴形山公園、樂山園、鶴形山隧道、今橋、阿知の松

新溪園、鶴形山公園の二つは第二章に揚げたから、こゝには略す。

樂　山　園

樂山園　向山の頂にある。大正二年に大原孫三郎氏が果樹園藝界の泰斗小山益太翁を聘して開いた理想的の高級果樹園で、面積約四ヘクタール（四町餘歩）果樹數千本、ことごとく内外の最良種を蒐め、改良に改良を加へたもので、桃では白桃、梨では二十世紀、晩三吉、西洋梨ドアイアンス、デュ、コニス、葡萄では溫室葡萄各種を主とし、その外最近米

國より取寄せたプラムコット等もあり、品質の優良に於ては容易に他の追隨を許さぬものがある、中にも溫室葡萄、西洋梨はしば〳〵宮内省へ献納された。

大正十三年に小山翁はこゝで歿せられたが翁の功績を記念せんがため從來の園名名田山果樹園を改め、翁の雅號樂山に因んで樂山園と名づけた。なほ岡山縣果物同業組合の手でこゝに翁の銅像が建設されることになつてゐる。

園の頂上、標高百メートルの三角標を中心に、廣い平坦部があつて、こゝは四顧眺望何等目を遮ぎるものゝない理想的の展望臺ともいふべく、南は藤戸の古戰場脚下に展開し、兒島の連峯起伏せる間に瀬戸内海、四國の遠山隱見し、西は近くは足高山、太田山の小丘阜恰も盆景の如く、遠くは遙照山等吉備の名山を望み、東は眼界最も廣く、岡山平野は一副の地圖を擴げたるが如く、道路橋梁邑里一々指點すべく、丘陵其の間に點在して、一段の趣致を添へ、兒島灣また一眸の中にあり、小豆島及び東備の遠山淡くその後をめぐり、風景の美實にいふべからざるものがある。園内の桃梨艶を競へる陽春の候美顆累々たる秋晴の節、最も登臨に適する。こゝから東へ峯を越せばすぐ小野小町姿見の井戸から日間樂師へ出られる。

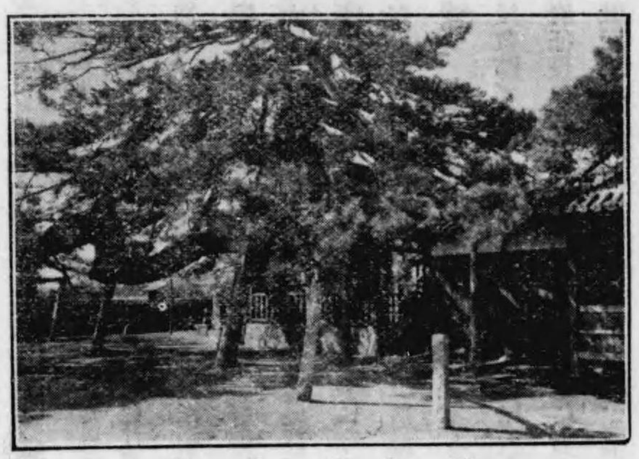
鶴形山隧道

鶴形山隧道　大正十五年五月鶴駕行啓記念事業の一てあつて、山南の舊市街と山北の新市街とを連絡せしめ、市の發展に重大な寄與をなすもので、昭和二年三月起工、同年十一月竣工、連絡道路を合せて総延長約四二二米六（二百三十一間九分）幅員七米（三間八分五厘）内隧道延長約一〇五米四（五十八間）幅員約四米七（二間六分）隧道内部はすべて混凝土卷の瀟洒たる構造で、晝夜点燈の設備を施し、総工費七萬壹千八拾壹圓、内五萬參百八拾壹圓は寄附に依つたものである。南口洞門は本町の中央に面し、北口洞門を出づれば即ち旭町である。南北の洞門また現代式な意匠に成り、市の一美觀たるを失はぬ。夏季は南口洞門から本町までの間に夜店を張つて納涼の客を呼んでゐる。

今橋

今橋 鶴形山トンネルを出て本町を横ぎり、眞直に南に進めば、直に今橋に達する。今橋は昔から倉敷名所の一つであつたが、近時橋臺の一部にくるひを生じ改築を要するに至つた。時恰も鶴駕奉迎を目前にひかへてゐたので、大原孫三郎氏が篤志で引請け、設計圖案および彫刻模型は故畠伯兒島虎次郎氏および東京美術學校彫刻科出身兒島矩一氏、倉敷紡績株式會社技師村木卓郎の三氏に囑託し、大原氏自ら工を督して日數四十、役夫二千八百餘、工費壹萬六千餘圓で改造した鉄筋混凝土拱橋で、花崗石の裝工を施し、高欄彫刻の群龍は悉く仰いで鶴駕を迎へ、齊しく聖代を頌するの狀があつて市の一大偉觀である。

大正十五年五月竣工。



阿知ノ老松

阿知の松 老松の村社八幡神社の境内にある。幹の周り四米半、高さ十五米、枝葉東西四十五米、南北五十五米以上いづれも支柱で支へてある。樹下に千種有功卿の歌碑がある老松の地名もこの松から起つたのである。

此の里もかくこそあれととことはに
立ち榮えゆく阿知の松が枝

當市小野丈平氏所藏の文化十五年刻阿知松圖の版木に、「高さ九間、東西十五間、南北二十一間餘、云々」とある。文化十五年は今から既に百十一年の昔に當るのである。

皇太后宮、寺谷、城山、遠州井、代官の墓、岡雲臥
岡鶴汀岡延年の墓、鐘撞堂、其他

阿知潟、鯛原（鯛の浦）等のことは第一章に記したから、こゝにはその外の舊蹟二三を擧げる。

皇太后宮　大字平田の内、菅生村界に幸田（コウダ）といふ古地がある。廣さ約二ヘクタール。この地は舊名を皇太后宮（コウダイコクと訓む）といひ、往古皇太后宮の職地の舊蹟である。

寺谷　足高山足高神社の裏手に寺谷といふ所がある。こゝは昔足高神社の別當寺のあつたところで今なほ礎石などが片々殘つてゐる。別當寺のことは足高神社の條に記して置いた。

城山　鶴形山と向山と相對するところ、向山寄りに小字城山といふところがある。小野庄五郎景盛の屋敷跡で、小堀遠江守が、こゝに屋敷を建てゝ後代官の陣屋を置かれたが、慶應二年四月十日の曉天に幕府征長の餘波として、浪士の燒討にあひ、焦土となつた。由來こゝは小丘阜であつたが、倉敷紡績株式會社が工場を此所に建て、山を夷げ、堀を埋め、今は全く昔時の俤を見ることは出來なくなつた。

遠州井　船倉の敎善寺のすぐ上にあつて、俗に「シロウト川」といふ、白糸泉の意であらう。その水輕く淡く小堀遠州が釜の水に愛用したものだと言傳へてゐる。

此山は水を六月の花と見ん　舍羅
茶にやつす袂もあさし山清水　支考

元治元年林孚一、和栗淵等改修し、碑を側に立て、時の代官櫻井氏に揮毫を請ひ「遠州井」の三大字を刻した。

代官の墓　長蓮寺は寶曆十二年雪峯禪師再興以後代官井に屬吏の菩堤所となり、現に數十基の墓がある中に、この地で死んだ代官花木傳次郎政等（大慈院德蓮壽仙大居士）萬年七郎右衛門賴行（賴仙院行眼大勇居士）大草太郎右馬政卿（孝德院殿天澤良榮居士）古橋新左衛門忠良（泰興院覺翁榮繁勢隆居士）田中庄次郎時懋（時懋院殿日惠宗壽居士）等數氏の墓がある。

岡雲臥　岡鶴汀、岡延年の墓　本榮寺の庫裡の右、一段高い淸正堂との間の石段を上りつめた右の段に鶴汀（高翔院鶴汀日鶴墓）およびこれと斜に相對して、延年（鑒霞院仙孺日僊居士）の墓があり、そ

れよりやゝ下の段に雲臥（九畹岡先生墓）の墓がある。雲臥のことは前に記したからこゝには省く。鶴汀延年は兄弟で、兄は詩名最も高く、弟は畵を能くし、共に孝を以て官に賞せられた。その外、岡氏の一門にはなほ知名の士が多い。

鐘撞堂　本町觀龍寺の東隣にある。寛保二年即ち今（昭和四年）から百八十七年前の創建であるが現在の堂は明治三十七年大原孝四郎氏が新に時鐘を鑄鐘棲を建てゝ寄附したもので、市の管理に屬し、晝夜報時を怠らない。

其他　右の外、附近の舊蹟で、内務省から史蹟名勝天然記念物に指定されたものに、三須村大字上林字皇塚の備中國分尼寺趾、同村大字三須字作山の作山古墳、加茂村大字新庄下字造山の造山古墳等がある。

三　附近の名所

不洗觀音、日間山法輪寺、安養寺の國寶、西岡山御野立所
垂乳根の櫻、連島沖の潮干狩、霞橋、酒津遊園地

不洗觀音　安產の靈驗著しく、懷胎すれば安產の御守を戴き、安產の後その御守を返納するが例で、年中賽客絶えず、御守は内地はいふに及ばず、臺灣、朝鮮、滿洲、アメリカまでも弘まつてゐる。所在地は豊洲村大字中帶江で市の東約一里、驛から常に自動車の便がある。その北は即ち帶江銅山。

日間山法輪寺　向山の東側は即ち帶江の日間山（ヒルマヤマ）で、名刹法輪寺があり、日間藥師、日間の櫻、日間の紅葉、小野小町姿見の井戸は古來有名である。姿見の井戸から、西へ峯を越せば、すぐ樂山園に出る。

安養寺の國寶　市の北一里、淺原山に安養寺の古刹がある。境内に毘沙門堂があつて昔は百八体の木像があつたが、今は四十六体と脇立二体とだけになつた。その中で、本尊木造毘沙門天立像一体、脇立木造吉祥天立像一体は國寶になつてゐる。

西岡山御野立所　市の北郊西岡に明治天皇御野立所の趾がある。明治四十三年の大演習第一日に倉敷

驛からこゝに向はせられ、東西兩軍の遭遇戰を御統監遊ばされた所である。

垂乳根の櫻　市の西北一里半、伯備線清音驛の附近清音村輕部神社の境内に名木垂乳根（タラチネ）の櫻がある。樹幹の周り八尺、無數の枝を垂れた大枝垂櫻で開花時の風情例ふるに物なく、遠近杖を曳くものが絶えない。

連島の潮干狩　連島沖海岸は縣下第一の潮干狩の好適地で、蛤、しやく、蟹等の獲物がある。南西約十粁（二里半）自動車の便がある。

霞　橋　中國第一の長橋、長さ六一六米（三百三十九間二分）有効幅員六米三六（三間半）工費四拾八萬九千圓、大正十五年十一月起工、昭和三年七月開通の最新式鐵橋である。高梁川の河口から約三粁餘（三十町）の地點にあつて左岸は連島、右岸は玉島である。

酒津遊園地　市の水源地附近にあつて、後に青江山を負ひ、高梁川の清流甲兜山を繞り、風光明媚、夏は鮎、秋は茸を狩るべく、貸ボートもある。

第七章　娯樂慰安

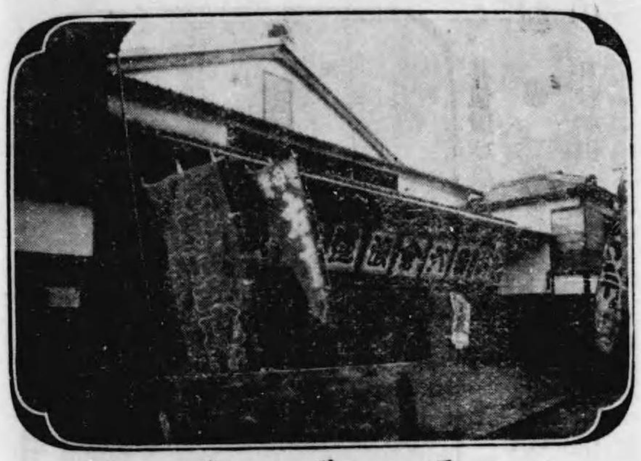
劇場、活動寫眞常設館、撞球場、カフエー喫茶店、遊廓と檢番、料亭と旅館

新興都市にふさはしい三劇場、二活動寫眞常設館があつて、これら同業者は倉敷睦會を組織して相互の親睦と研究を怠らず、常に斯界の隆盛と向上とを期して居り、その不斷の努力は當市娯樂の中心として般賑をきはめてゐる。其他撞球場、カフエー、喫茶店、遊廓、檢番、料亭、旅館等いづれも盛んに客を呼んでゐる。

倉敷劇場

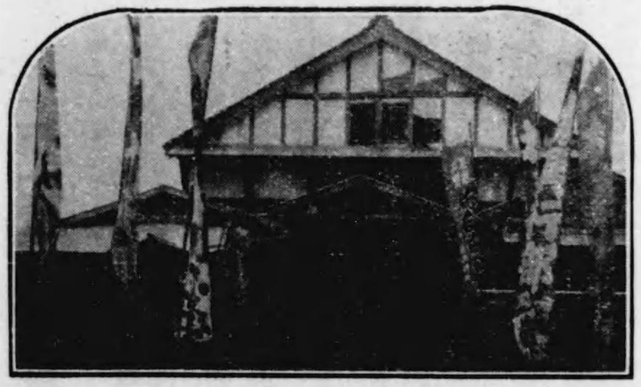
劇　場　三劇場各獨自の長所を持ちいづれも年中殆んど休みなく蓋を明けてゐる。

(1) 倉敷劇場　向市場にある。規模も設備も優れてゐる。



千秋座

(2) 千秋座　新阿知町にあつて市當の最も優秀な動活系ネキ帝來近。るるてつ持を誇い占るるてし介紹をのも



壽座

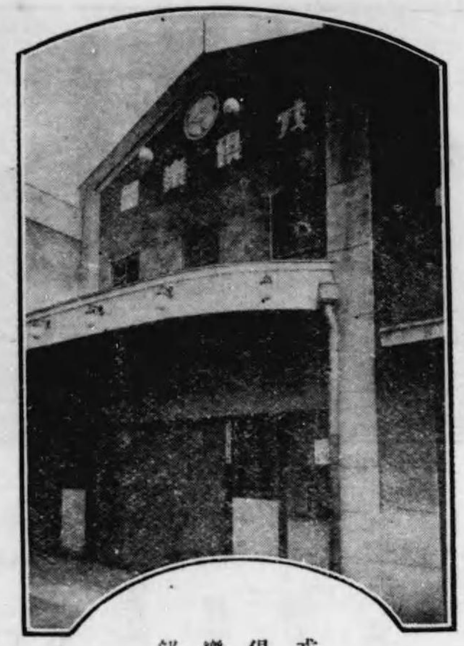
(3) 壽座　日の出町にあるる。近年改造を加へて面目一新してるる。

阿知館

活動寫眞常設館

新時代の寵兒として生れた兩寫眞館は相提携して大衆キネマファンのため層一層の飛躍を期し、最新優秀映畫の上場に努めてゐる。

(1) 阿知館（日活系）榮町にあつて驛から僅に百數十メートル。昭和二年八月開館、最新最善の設計に成り、建築樣式は明るい氣持の壯麗なもので、關西の斯界に誇るべきものだといはれ、上場の優秀映畫と相待つて觀客に十分の滿足を與へてゐる。



戎倶樂部

(2) 戎倶樂部（松竹系）戎町にある。大正八年四月、まだ當市に映畫熱の旺盛でなかつた時代に地方唯一の常設館として開館したもので、經營に最善の努力を盡して當地斯界今日の隆昌をもたらしたその草分の功績は偉大なものである。優秀映畫が常に上場せられてゐる。

撞球場 近年撞球熱の昂まるにつれて撞球場が段々開かれて來た。現在數五。

カフエーと喫茶店 カフエーは現代の趨勢と慾求によつて近年夥しく生れ、全市に散在する。現在數カフエー二十二、喫茶店二。

遊廓と檢番

(1) 遊廓 川西町地内をその區域とする。青樓こゝに軒を並べ妓女百餘名。好況時には其數遙に增加し往來の旅人また樓門をくゞり絃歌紅燈にさんざめく。昭和二年中の遊客総數一萬七千七百四十六。

(2) 檢番 舊倉敷町當時は倉敷舊券番と同盟檢番とが永らく併立して居たが、昭和二年三月一日有力者數氏の斡旋で圓滿合併し、現在の株式會社倉敷檢番を設立、經營方針を改善し、逐日隆盛に赴いてゐる。こゝに擁する多數の紅裾は楚々娟妍、歡樂境を華やかに彩る。

料亭と旅館 市の發展膨脹に伴ひ逐年其數を加へてゐる。現在數、料亭卅五（内旅館兼業七）旅館十四。

（をはり）

倉敷市商工人名錄

凡例

一、本商工人名錄は倉敷市商工業の現況を審にし併せて各地との取引紹介の便を圖る趣旨を以て編纂したものである。

一、本商工人名錄には昭和四年三月現在に於て商工業を營める營業收益稅納稅者を網羅し努めて遺漏なきを期したが稿を急いだ爲め多少の相違なきを保し難い。

一、部類の區分は類似の商品は成るべく同一項目中に總括し一商店にして取扱商品數種あるものは其內の主たるものに依つて掲記した。

一、同一部類中に於ける排列は「いろは順」に依つた。

以上

第一類　米穀、雜穀、精米業、製粉、馬糧

營業品目	町名	商號	電話番號	氏名又ハ名稱
精米、精粉業	笹沖			生藤茂五郎
白米、木炭	壽町			堀相次郎
穀物、薪炭、煙草	新町	船穂屋		保津千代吉
穀物、煙草	川西町			土倉政吉
白米、薪炭、麴製造	新町			岡田筆次
雜穀	東町	帶江屋		大森武介
精米業、雜穀	春日町		四六二	岡村島吉
製粉	戎町			小川幸平
穀物兼日用品	福井			大守嘉一
穀物	船倉町			龜山此吉
穀物	稻荷町			渡邊周太郎
精米、雜穀、薪炭	千歲町		五四一	高田與七

精米業、雜穀　濱田町　竹政實治　三三〇
穀物　新川町　内藤午一
精米業、荒物　旭町　中村義男
雜穀、薪炭、日用品　船倉町　内田久吉　四一八
穀物兼日用品　同　黑川仁重郎
米穀兼蒲鉾製造　砂越町　山川鶴太郎　三五一
穀物　戎町　備中屋　松本嘉吉
精米雜穀、綿　二反　丸山幸太郎　六五四
精米兼養鷄飼料　濱　家守商店　丸山俊一　四一二
精米業　戎町　藤澤秀雄
同　東町　藤原民三
穀物　若松町　藤原幸吉　四一三
雜穀　新川町　近藤筆野　五六三
穀物、酒類、乾物　船倉町　小谷辰藏　四三一
穀物、薪炭　濱　小玉藤藏

馬糧　御幸町　坂尾勢無
精米業　旭町　佐藤恭三　一四六
精米業　白樂市　佐々木辰次郎
精米、雜穀、製繩　鯛原町　木口常吉
精米業　川西町　水香豐
精米業　前神町　精白所　三好源次郎
精米業　西大町　白神儀市
穀物　濱田町　白神金藏　五二〇
米穀　榮町　平松利喜太　二三二
精米業　八王寺大丸　守屋數造

第二類　酒類、醬油、酢

酒、醬油　新町　出原末吉　三四〇
酒、酢　旭町　出原正
酒、薪炭　千歲町　橋本卯一

醤油醸造	平田	福見屋		
酒、荒物	川西町	西榮町	三七二	羽田正澄
酒	西榮町			西田作太郎
醤油	西榮町			堀剛
醤油醸造	沖（堀川）	新屋		大西政二
酒、氷、煙草	本町		六四六	小野飼一
酒	西榮町			奥田峰太郎
醤油	新川町			岡時太郎
醤油醸造兼酒	阿知町		一五七	大橋太郎
酒、醤油	萬町			若林平三郎
酒	新町			亀山順治郎
醤油	阿知町		三一三	高谷槌次郎
酒	濱田町			高田億次
酒	西榮町		五五一	永山榮一
酢	同			虫明道造
				野中耕夫

醤油醸造	川西町	旭の松	三〇二	窪田茂一
酒醸造	沖			日下兼松
酒	西榮町			黒瀬熊次郎
酒、煙草、菓子	新田	橋本屋		安田きの
醤油醸造	平田	小西屋	六二	山本益鹿
同	西大町		三四三	松本平四郎
酒兼菓子	東町	開花堂		藤原吟三郎
醤油醸造	平田			古屋野泰治
醤油	千歳町		三六一	佐藤正夫
酒	榮町			城戸福松
醤油醸造	戎町	淺口屋	二四	木村利太郎
酒	新町		四二	三宅鶴一郎
酒、煙草、日用品	船倉町	魚石		箕内音五郎
酒醸造	福井	玉司		白神種二
醤油醸造	同	ヤマシロ		白神享一

醬油釀造　二反　濱田町　三三五　廣末利吉

酒　東町　萬年雪　二五二　森田尙二

酒釀造　河原町　守谷公平

酒、煙草　戎町　五六四　諏訪喜三郎

酒　唐戸　角田加登一

酒兼日用品　川西町　杉原光治郎

酒

第三類　味噌、漬物、糀、鹽

麹製造兼油　東町　三五二　大崎勘次

漬物　西榮町　一五六　三宅力二郎

麹製造兼煙草　壽町　森文子

味噌、漬物兼佃煮　新阿知町　五七三　諏訪十七吉

鹽（元賣捌）　戎町　二四八　岡山塩元賣捌株式會社倉敷支店

第四類　氷、清涼飲料水

清涼飲料水製造　榮町　二〇四　原田源次郎

同　西榮町　原田政吉

氷、清涼飲料水製造、旅客貨物運送自動車　新川町　三五三　加藤清一郎

清涼飲料水製造　御船町　三〇一　名古谷文四郎

飲料水兼蒟蒻製造　稻荷町　山本搔一

清涼飲料水兼酒　高砂町　三五四　廣畑伊三郎

第五類　菓子、餅、饅頭、麵麭、煎餅、砂糖、餡

菓子製造　旭町　井上與三五郎

同　御崎町　石原正一

餡製造　旭町　池谷喜作

菓子製造　戎町　北川製餡所　六〇二　井上泰吉

菓子	新阿知町	長谷井卯三郎	
菓子、煙草	船倉	堀井德太郎	三三六
菓子製造兼電氣機具	阿知町	築波要四郎	
菓子	日之出町	岡本仙十郎	
餅兼白米	稲荷町	小野增一郎	四五六
菓子製造	都堂	岡野八重治	
菓子、果物、煙草	本町	岡嘉一郎	
菓子製造	大正堂	大倉一義	五二四
菓子	榮町	小川理吉	
菓子、煙草	川西町	小野豐	
菓子製造	濱	小野馬次郎	
同	日吉	纖井作松	
同	春日町	大倉尚雄	
菓子、電氣器具	壽町	河田傳治	
饅頭製造	榮町 虎屋	河原保次	

砂糖卸	土手町	河原平	長三四
菓子製造	旭町	加瀨野高史	
菓子製造	新川町	柏野樂之助	
菓子	西榮町	加藤廣治	
菓子製造	阿知町	河合今市	四六〇
菓子製造	松壽軒 榮町	吉本誠一	六四〇
同	橘香堂	田頭省一	
菓子製造、煙草	船倉町	中村太郎	
菓子兼荒物	西大町 日英堂 榮町	中谷卯平	
菓子製造	老松	內藤節二郎	
麵麭製造	本町	內山政市	四三八
餅製造	若松町	野島二郎	
菓子	川西町	熊代龜一	
菓子製造	東町 鳥羽屋	八木英太郎	
同	川西町	前田安三郎	

菓子製造　船倉町　三一七　藤原薫
同　榮町　藤原輝功
菓子兼仕出し　向市場　藤森棲二
菓子、煙草　前神町　八濱屋　六六六　藤岡只平
菓子製造兼ゴム靴　向市場　藤助之丞
菓子製造　本町　戎堂　一六九　木本政次郎
同　西大町　木村一夫
同　東町　三宅己之助
同　川西町　水香三平
菓子　新川町　白神重次郎　六六三
菓子製造　戎町　壇尼仙市
同　壽町　白神正次郎
菓子兼日用品　西榮町　平松今三郎
生餡製造　西大町　關口佳吉
菓子製造　川西町　杉江藤四郎

菓子　同　角南久米
菓子製造　船倉町　榮堂　鈴木熊吉

第六類　乾物、海産物、八百屋、青物、果物、日用雜品

八百屋、荒物　濱　石原惣作
八百屋、酒　御幸町　石村萬次郎
八百屋、生魚　西本町　龜田屋號　四六七
八百屋　御崎町　磯崎輝明
同　高砂町　犬飼賢一
同　東町　板谷忠吉
八百屋市場　若松町　井木長平
八百屋　若松町　石居忠範
乾物、鑵詰　阿知町　六二九　石井毅
八百屋　御崎町　五五二　橋本德太郎
青物　新川町　林友一
花田庄平

日用品	千歳町	西川道之助		
八百屋	二反	西江吉太郎		
八百屋	春日町	西原コト		
青物問屋	西大町	堀内喬	六五八	
日用品	大内	鳥越惣平		
八百屋	船倉町	竹波九一		
青果、乾物、菓子	榮町	岡鶴吉		
食料品、煙草	土佐屋	小野利三		
八百屋	新町	大熊傳吉		
乾物、青物	小野屋	大熊壽太		
八百屋	同	小田春郎		
海産物、青果、乾物問屋	春日町	渡邊源太	特長 一〇〇一 二〇〇八	
海産物、乾物卸	新川町	鴨井銀三	二五八 四八	
青果、乾物、鑵詰	同	龜山龍三		
青果物問屋	藤徳商店	都志馬治	四二六	
八百屋	中町	吉岡政太郎		
果物、乾物、日用品	魚長	竹内佳行		
同	新川町	田中善次	五〇九	
食料品、薪炭	佐野屋	高橋馬太郎		
青物問屋	旭町	高橋又兵衛	五四五	
八百屋	濱	田村馬吉		
同	本町	高橋治		
食料品、洋食器	砂越町	根岸彌之助	五二	
日用品	新川町	内藤關次郎		
同	稻荷町	難波實太郎		
日用品	川西町	中桐幸吉		
青果物問屋	濱田町	宇野壯一		
海産物、乾物、砂糖卸	白樂市	則武源吉	一〇二	
八百屋	四十瀨	久保處一		
同	新町	黑田佐市		
	新川町			
	阿知町			
	向市場			
	日之出町			

乾物、海産物、洋酒	新川町	五三〇	安田三吉
果物、日用品	二反		八木岩雄
八百屋	壽町		矢野秀志
乾物、青物	西大町	七四	松下武平
乾物、果物、青物問屋	新川町	六二一	槇尾元一
食料品、薪炭	春日町	四五七	藤澤佐助
八百屋	川西町		藤森喜太郎
日用品、煙草	濱		小橋時丈
海産物、果物、乾物	東町	六二六	小池伊太郎
八百屋	壽町	五〇八	小崎仲藏
青果物、海産物問屋	稻荷町		淺野豊
果物	榮町		安藤榮
乾物	向市場		天本
八百屋	濱田町		佐々原友吉
青果物、荒物、日用品	前神町		岸本關藏
	三島屋		

果物	御幸町	五〇六	木村眞喜千
八百屋兼製繩	船倉町	三	三宅佐平
バナ、問屋	西榮町	五六一	三宅皎一
食料品、果物	萬町	五四二	三宅秀一
青果物、食料品	濱國商店		三宅一市
乾物、青物	川西町		三宅兼一
削鰹、鰹田麩製造	御崎町		壇尻公三
青物	本町		白神加免
青物問屋	新川町		白神平藏
乾物、荒物	同	七二	東清一
同	阿知町	三七〇	平松藤平
青物	新川町	二二〇	平田數雄
八百屋	濱		日岡綱太
	濱		

第七類　麵類、豆腐、蒟蒻

麵類製造　船倉町　岩知道徹　一六
豆腐、菓子　同　渡邊采次郎
豆腐製造、酒、製箸　濱　梶原勝次郎
麵類製造　砂越町　兒島屋　田中健一
蒟蒻製造　御崎町　田邊才三郎
饂飩製造　新町　山地金松
豆腐製造　同　松田松太郎
饂飩素麵製造兼米穀　濱　藤山忠造
麵類製造　西榮町　二場鹿之助
饂飩製造　向市場　江口友三郎
麵類製造、製粉　日之出町　廣瀨勇造　五四九

第八類　生魚、牛肉、鶏肉、蒲鉾

生魚　西榮町　井上喜太郎
同　東町　長谷川要八

牛肉　高砂町　濱　物平　二四四
蒲鉾製造　向市場　西原平四郎　四四七
生魚　富久(大内)　鳥越賢治
肉類　向市場　岡田荒一
生魚　二反　長船金作
鶏肉鶏卵兼生鳥問屋　若松町　鳥正　大野コギン　三三九
蒲鉾製造　向市場　ヤマウ　岡本右佐太　四五〇
生魚　同　林善助　六三八
生魚問屋　前神町　鴨井正三郎　特長六七
生魚問屋　船倉町　鴨井鮮魚部　株式會社倉敷魚市場　一一〇
生魚　向市場　壽町　龜山惣太郎
生肉類　壽町　坪井傳一
同　若松町　中村岩男
生魚　船倉町　中原定五郎
同　稻荷町　中田靜一

生肉類	榮町	三一〇	村上婦美代
生魚、酒、菓子	川西町		向井兼太郎
生魚、半物仕立	本町	三四五	宇野豊次郎
精肉、鶏肉	新町	六五一	桑原儀太郎
生魚	新阿知町		熊井熊吉
生魚兼料理店	川西町	六三〇	熊野辰次
生魚	二反		安倉佐八
精肉類	戎町		前原正孝
鶏肉	濱田町		松下辨五郎
蒲鉾製造、生魚、石炭	土手町	三六九	藤筆太郎
生魚	船倉町		福守小次郎
同	東町		藤孫助
生魚、酒	西大町		小原吉松
生魚	向市場		江口又三郎
生魚兼料理店	新阿知町	三三七	佐々木菊松

生魚	船倉町		淺沼春一
同	同		秋岡直三郎
同	安江		三宅林次郎
同	戎町	五六九	三宅與平
同	船倉町		三宅十太郎
同	向市場		三宅泰一
生魚	御崎町		塩田藤吉

第九類　煙草、茶、牛乳、鶏卵

煙草、麻糸	白樂市		大高金作
煙草	川西町		高見金藏
茶	同	五三九	田口清志
煙草、荒物、日用品	御崎町		福森壽美
茶、煙草	阿知町		秋山治助
煙草、青果、小間物	新阿知町	五三四	三宅秀三郎

第一〇類　荒物、農具、蠶具

荒物	川西町	渡邊佐加惠		
同	阿知町	高島賀壽男		
同	稻荷町	武内要吉		
同	川西町	延明竹次郎		
同	吉岡	藤原治平		
同	濱田町	吉屋野義雄		
同	戎町	佐分利永吉	六一四	
荒物、青物	川西町	光畑伊三郎	六六二	
荒物	前神町	三宅五三郎		
荒物、穀物	濱田町	宮原唯夫		
荒物、農蠶具種苗	稻荷町	白神篤四	六四九	
荒物兼折箱製造	若松町	加島屋平松鶴藏		

第一一類　藥種、賣藥、塗染料、蠅取紙

藥品、塗染料、度量衡	本町	中島屋	二六	
藥品、塗染料、賣藥	戎町	中元治郎	四四四	株式會社林源十郎商店
藥種、煙草、度量衡	壽町	別府藥店	五五八	林亮太
藥品、洋酒、化粧品	川西町	別府亮太	三七三	渡邊新三郎
賣藥	船倉町	岡田九四郎		岡田九四郎
蠅取紙製造	西榮町	カモヰのハイトリ紙	二四六	鴨井利郎
藥種、ゴム製品	稻荷町	全快堂	五三二	貝原彌作
藥種、小間物	向市場	大山屋		龜山與越
藥種	阿知町	フキヤ		塚本傳一
藥品、衛生材料、計量器	榮町	新藥堂	三六二	辻孝平
藥種、度量衡器	榮町	旭堂	二三	宇野代三郎
藥種、賣藥調劑	川西町	和氣屋	六三四	安田和之

歯科器械材料	萬町	六一二	藤波熊太郎
薬品度量衡、煙草	川西町	二一八	江口民雄
薬局	萬町		佐藤賴平
薬種	御幸町		佐野嘉内
同	阿知町		木村金次郎
辨柄製造	沖		白神壽資
賣薬、煙草、化粧品	西榮町		日名耕一

第一二類　陶磁器、漆器、硝子、佛具

陶器、漆器	本町	六二〇	井上惣太郎
漆器類	戎町		横溝信二
硝子類	東町	三七五	瀧谷嘉十郎
硝子、電氣器具、日用品	稲荷町		武内號
硝子類、株式賣買	本町	五二九 二三〇	直村和三郎

佛具	同	六四八	中原彦太
陶磁器	壽町		彌久末庄七郎
同	阿知町	四九	安田清三郎
同	濱田町	一七二	江口幾次
同	東町	六〇一	光畑岩吉
漆器、荒物	本町	三二三	白神理吉

第一三類　呉服、洋反物、太物、モスリン

呉服太物	壽町		石井龜彦
同	濱		井上秀雄
同	濱田町		井上治郎
同	新町	六一七	林菊次郎
呉服、モス類	戎町		西山正一
呉服、太物	阿知町	二四七	仁科清吉
同	壽町		堀内光市

同	本町	兒島屋	一二七
同	東町		三二六
綿布小倉織物ネル	若松町		五一〇
モスリン綿布	濱田町		五七二
呉服、洋反、太物	阿知町	四十瀬屋	五四
呉服太物	同		
同	壽町		
太物	白樂市		
呉服、太物	阿知町		三六六
呉服、太物	川西町		四四六
同	富井		
呉服、太物、雜貨	壽町		
呉服、太物	新川町	今屋	
呉服、金錢貸付	濱田町		一四二
呉服、太物	同	たかしまや	二一六
			四二二

呉服、太物	濱		田
モスリン手藝材料	阿知町		中
呉服、太物	戎町		中
同　洋反、太物	東町	十六屋	一〇六
同	本町	尾原屋	一五
呉服、洋反、太物	東町		一一七
同	砂越町		三五一
呉服、子供服地	阿知町		
呉服、太物	同	下津井屋	四三
同	川西町		
同	壽町		
同	若松町	喜多屋	
同	東町	林屋	
同	稲荷町		
呉服、洋反	壽町	みのや	

田雪
中利喜藏
野精一
難波彌一郎
田彌八
内
楠戸合名會社
栗正武羅
矢吹鹿藏
松田源次郎
浦林造
福武マツヱ
淺沼建造
佐々木陸治
柚木友一
味野仲次郎

呉服、太物	阿知町	六四五	水川萬藏
呉服、太物	戎町	十六屋支店	三宅秋惠
同	壽町		溝手熊
呉服、太物、藥品	同		宮西廣雄
呉服	東町		三宅志滿
呉服、洋反、太物	濱田町	二五六	毛利保三郎
呉服	新川		守谷要助

第一四類　糸、製綿、織布、人絹、蒲團、蚊帳、メリヤス綿布、古着

酒醬油搾袋、帆前掛製造	福井		
綿類	阿知町	廣田屋綿店	
製綿	川西町	二四三	石井岸平
同	壽町		伊藤益惠
			尾熊利一
			小合讓平
綿類、蒲團	新阿知町		片山彌五郎
綿類、雜穀	東町	ゑびや	河本万助
製綿、蒲團	濱田町	五四七	吉田正市
絹紡原料	濱	自宅二二七 倉庫三四四	高吉眞一郎
糸類	壽町	龜屋	檀上龜之助
綿糸紡績、織布	旭町	一一〇 一一二 一一三	倉敷紡績株式會社
人絹製造	旭町	四三六 五二二	倉敷絹織株式會社
撚糸製造	御船町	二八	福山撚糸紡績株式會社倉敷支店
古着	安江		江口覺太郎
綿帆布製造	濱	一二三	惠藤熊太郎
製綿米ゴロス彈	土手町	四〇五	西藤末吉
製綿	本町	六一三	三宅廣吉

糸類	阿知町	廣田屋	一二二 三宅金作
メリヤス類、蚊帳、木綿	同	三宅東店	三五六 三宅藤三郎
綿、蒲團、蚊帳	東町	大井屋	須賀由太

第一五類　洋服、半物仕立

洋服	戎町		井上繁昌
同	川西町		原田富次
同	西大町		羽原福松
同	西榮町	克己堂	西延也
半物仕立	濱田町		神社卯助
洋服	阿知町		河原三次郎
子供服既製洋服	戎町	加寶堂	一一三 吉田須喜
半物仕立	千歳町		中西治一郎
洋服既製品子供服	阿知町		五四八 中桐佐太郎
半物仕立	日之出町		字野一枝

洋服、羅紗類	旭町		五一二 植村俊二
半物仕立、雜貨	御崎町		六四一 藤井正太郎
洋服	本町		小山與三郎
同	老松		佐藤冬吉
同	高砂町		壷尻良造
半物仕立、雜貨	阿知町		白神まつ
半物仕立	東町		壷飽繁野
洋服	川西町		森川心一

第一六類　染物、洗濯業

洋服染	榮町		呼出三一〇 井上善一
染物、煙草、木炭	濱紺屋		小野蛙太郎
染物	濱田町		大熊和平治
洗濯	川西町	八幡屋	吉澤助太郎
染物	砂越町		横溝米三郎

同　千歳町　タニヤ　高谷惣平

染物、自轉車　稲荷町　中田源一

洗濯　砂越町　中務基資

染物、洗張　同　京流堂　柳井喜一郎

染物、タオル印入　新川町　河内屋　丸川敬一

洗濯　萬町　佐々木佐一

染物(印入)　川西町　森脇芳太郎

第一七類　和洋雜貨、帽子、洋傘

帽子製造　榮町　板谷定一

和洋雜貨　濱田町　堀米吉

雜貨、メリヤス　萬町　大室健太郎

和洋雜貨、化粧品　東町　小川清一

和洋雜貨　濱田町　渡邊德三郎

和洋雜貨　旭町　加門道治

同　阿知町　一四八　加門元治

和洋雜貨、羅紗既製品　戎町　四四〇　田邊榮治

和洋雜貨　本町　ニコ〳〵堂　四〇七　田邊金平

同　壽町　中桐益治

和洋雜貨、足袋　東町　田中屋　小橋宇太郎

和洋雜貨、種苗　同　たねものや　江口十七藏

和洋雜貨、菓子　榮町　四七一　阿部太郎

雜貨、メリヤス　戎町　三好屋　三好篤太郎

和洋雜貨　濱田町　平松適治

第一八類　小間物、化粧品、袋物、玩具、髢、刷毛

手藝材料、進物品

小間物　濱田町　石井美津

小間物　阿知町　二二五　原安次郎

袋物卸	同	保田屋	三四二
小間物、化粧品、石鹸卸	同	濱田町	五七二
小間物、化粧品	新阿知町	戎町	前神町
小間物	濱田町	本町	天賞堂
同	濱田町	川西町	旭町
同	萬町	濱田町	本町
髢製造	小間物、化粧品	玩具	奈良屋
飾物、進物品	小間物	刷子製造	手藝材料
小間物	小間物	川西町	西榮町
手藝材料、紙、文具、毛糸	西本町	ユバヤ	佐々木登始雄

第一九類　和洋家具、建具、嫁入道具、指物、疊

疊製造	稲荷町	板谷幸太郎	木村金十郎
和洋家具、嫁入道具製造	東町	茶屋	羽根岡和平治	平岡是治
嫁入道具	濱田町	原田德之助	日名子豊
洋家具、指物	向市場	大西政太郎	杉原時四郎
建具類	大黒町	岡本吾之吉	六三一
洋家具、指物	榮町	小川岩吉	
指物	砂越町	横溝憲士	
洋家具製造	旭町	吉田勝二	

四一郎	原岡本久平	三四二	
渡邊穗助	渡邊房次	岡本隆正	五七二
川上壽治	梶井金一郎	横溝定一	七村章二
野瀨繁雄	黑岡きわ	楠戸竹次郎	松井竹松
藤原周次郎	有森ヱイ		

洋家具、嫁入道具　戎町　長井新作
建具、指物、飲食店　新阿知町　上野松三郎
嫁入道具　新町　山本松太郎
嫁入道具、玩具　本町　日近屋　山口善助
疊製造　濱田町　松浦德太郎
建具、指物　前神町　福森正太郎
簞笥製造、玩具　阿知町　藤原儀助
嫁入道具　新阿知町　坂本爲三郎
疊製造　東町　備中屋　森田又七
建具、額縁　阿知町　江戸屋　鈴木昇二
指物　東町　杉原管一

第二〇類　時計、貴金屬、眼鏡

時計　萬町　西岡薫
時計、眼鏡、貴金屬　濱田町　谷屋　四四三　岡隆一

同　阿知町　大隅芳三郎
同　戎町　六一八　岡良平
同　本町　三四七　大隅熊太郎
同　榮町　漁野三代藏
時計、貴金屬　濱田町　島田隆一

第二一類　金物、鉄工業、鉄力細工、金網

金物、荒物　萬町　四七〇　石原伊三郎
金物、度量衡器　阿知町　三三三　荻野眞喜治
金物　萬町　小倉利郎
同　御幸町　渡邊代次郎
鉄力細工　白樂市　神崎貞一
金物　本町　六八　河田用七
鐵工機械類　白樂市　鴨井賢吉
鐵工業、諸車製造　榮町　かじ宗　五一　片岡宗一

金網籠製造	新町	仲忠	田中忠平
金物	東町	六五九	田邊吕一
板金細工	鯛原町		高橋農治
金物	戎町	六四三	田邊丈太
板金細工	新町		高橋金衛
鍼力細工	御幸町		高橋彌市
同	川西町		藤井熊太郎
金物	阿知町	かじまや	五三八 白神源次郎
改良農具、金物、鐵工	白樂市		白神万吉
鐵工業	日之出町		日岡惣吉
金物	本町		三〇九 森本綾

第二二類　提灯、團扇、扇子、傘

傘提灯、紙文具、硝子器	本町		小野長藏
扇子、カレンダー、團扇製造	新町		五二一 渡邊多嘉二

捺染形製造	西榮町		中村忠次郎

第二三類　油、蠟燭

諸油、雜穀、肥料	川西町	俵屋	一四九 藤野民次郎
諸油、石鹼、蠟燭	戎町	三宅商店	二四八 三宅正平
石油(卸)	土手町		六四 備南石油合資會社

第二四類　炭、薪・石炭、煉炭、炭團、コークス

石炭	御崎町		五四四 岩崎四郎
炭團、煉炭製造兼木炭	御船町		岡本圓二
薪炭、煙草	御崎町		小野惠喜次郎
薪炭	西榮町		六三九 鷲尾次郎
煉炭、炭團製造	船倉町		四四四 倉敷煉炭商會
薪炭	新阿知町		六六六 四〇五 田村松次郎

石炭、コークス、無煙炭	萬町	一七	上岡嘉七
薪炭	土手町		鈴木榮一

第二五類　樂器、蓄音機、ラヂオ、電氣器具、電氣業、寫眞業

寫眞業	濱田町	五五九	今岡次郎
蓄音機	濱田町		太田富夫
寫眞業	新町	五七一	樂養軒 辻光太郎
琴、三味線、洋樂器	戎町	四三九	京屋 六ツ森辰治
寫眞業	西榮町		淺井竹千代
ラヂオ、電機器具	戎町		ラヂオ電機商會 荒尾公信
寫眞業	本町		佐藤一等
樂器、樂譜	濱田町		三宅秀松
寫眞業	同		日之出寫眞舘 人見常一
電氣器具、ラヂオ	壽町	四〇八	佐々木電機ラヂオ商會 廣末利太郎
電力供給	本町	一五五 五五四	中國合同電氣株式會社 倉敷營業所

第二六類　下駄、靴、麻裏、足袋、鞄、行李

麻裏製造卸	川西町	二二四	井上宇一郎
履物、ゴム靴卸	本町		新谷清喜
足袋、荒物	日ノ出町		堀井增七
行李	壽町	五六二	岡崎久衛
履物、ゴム靴	西大町		岡本關治
桐下駄製造	高砂町		柏原惠一
靴製造	榮町		狩屋堅太郎
麻裏製造卸	戎町		兼信千代松
履物、生魚、料理店	向市場	五五五	加藤千治郎
麻裏製造	老松		貝原長五郎
麻裏製造	本町		横溝清二

同（卸）	向市場	マルタメ	横山爲一	
履物、傘、足袋	戎町	榮町おくの號	田田中和一	
履物（卸）	榮町		横田兼	
ゴム靴、運動靴	日ノ出町			
靴製造	向市場		田中芳男	
麻裏製造（卸）	榮町	平田分店	高原虎次郎	六四二
履物製造	川西町		嶽惣五郎	
同	萬町	山手屋	宇治鐘松	
履物	戎町		久保太郎	
麻裏製造（卸）	壽町		眞野高之助	
履物、煙草	本町	ゑび屋	槇尾林治	
履物、鉄工業	新川町		香本松五郎	
履物、百貨	濱田町	佐木屋	赤木繁藏	五五〇
足袋製造	大黑町	大黑屋	佐々木敬次郎	六一〇
地下足袋、ゴム靴	濱田町		木下十郎	
			三宅三喜藏	

靴製造、鞄	本町	三宅號	三宅熊七	
履物、洋傘、帽子	阿知町	和多屋	三宅小平	
履物	阿知町	內田屋	壇飽光太郎	
履物、足袋	西大町		桃井一郎	
履物	船倉町		守屋安兵衛	

第二七類　古道具、骨董品、書畫、表具

古物	稻荷町		羽賀龜三	
古物問屋	新川町		西崎誠一	九
古物問屋	新阿知町		岡部金太郎	
骨董品	濱田町		吉村與七	三六
表具	東町		吉田馨	
古物問屋	西本町		田島熊太郎	三一四
書畫、骨董	旭町		高橋孝二	
同	千歲町	山素屋	內田照次	

骨董　東町　溫故堂　野口龜次郎
書畫、骨董　同　前神町　黑川清一　三四一
古物問屋　新町　眞鍋精一
表具兼陶器　本町　柳源堂　丸山八郎次　一五九
書畫、骨董　新阿知町　佐藤井德雄
古物　本町　尙古堂　佐々井文三郎　一一四
道具兼新聞販賣　森江要平

第二八類　書籍、文房具、紙、萬年筆、紙袋

紙類　本町　井川久吉　四四二
紙、文房具　新川町　小野嘉一
文房具、月遲雜誌　萬町　室山義一　三二〇
文房具、書籍　戎町　田本屋　山本禮作　五一三
紙、文房具　阿知町　和氣屋　安田二美人
萬年筆　本町　小林廣一

書籍、雜誌、文具　阿知町　岸田屋　一二六　岸田康夫
萬年筆、眼鏡　濱田町　美寶堂　取次五五一　島田小三郎
紙類、燐寸、蠟燭　新川町　四一五　須原一男

第二九類　木材、竹材、石材、製材

材木、製材　川西町　四二三　小野岸太郎
材木、製材　壽町　二一七　大久保國太郎
同　西榮町　二〇九　代表者金森芳太郎
石材　御船町　加藤タカ
材木　沖　木屋　呼出四三五　筒井淳太郎
同　東町　四六三　中村春次郎
板材、竹材、金物　高砂町　六五二　三宅嶺吉郎
材木、穀物、肥料　濱　わん屋　四三〇　二二八　平松玉太郎
材木、製材　御船町　三〇七　三宅庄次郎

第三〇類　自轉車、荷車

自轉車	高砂町	中屋	小田猛
自轉車、旅館	御幸町		狩屋角一
自轉車	川西町		貝原仙次
同	日之出町		貝原毅
同	向市場		金光定吉
自轉車(卸)	濱田町		四五五
諸車製造、建築金物	御幸町		吉村猪吉郎
自轉車兼精米業	沖		三六
自轉車	本町		野口文藏
同	榮町		日下正一
同	東町		山田耕二
同	濱田町		山本雄治
同兼鋼球製作	本町		槇尾貫一
			槇野吾平
			香西啓二

自轉車	日之出町		江國俊三郎
同	阿知町		阿部初治
同	濱田町		赤澤房太郎
同	萬町		坂山仙吉
同	戎町		佐々木文平

第三一類　花莚、上敷、疊表、野草莚、繩

花莚、上敷、疊表	旭町		一三二
花莚、上敷	本町		二四〇
花莚製造	船倉町		四二〇
同	西榮町		五六〇
同	西榮町		二三一
花莚、上敷	旭町		三二九
花莚製造	吉岡		
同	福島木屋		

日本莚業株式會社	西山嘉市	合名會社中備敷物商會
合資會社岡野商店	岡本榮吉	小野喜平太
渡邊健太郎	貝原靜太郎	

繩、菰、蓆、販賣問屋	西榮町	三五〇	合資會社
疊表、麻糸	沖向市場	六六	松田平治
野草莚製造	白樂市		小松原佐五郎
花莚	若松町	三三九	小橋喜美子
疊表、荒苧	東町	六三三	小泉虎一
花莚、疊表、製菓原料、穀粉	大島		小林安吉
花莚製造	鯛原町	四六八	秋岡完治
花莚、疊表	御幸町	五四六	木口福次郎
野草莚製造	旭町		合資會社三宅商會
疊表	平田		平松益
花莚、上敷、藺草	東町	六五三	日岡昇平
疊表、花莚、麻糸、紙	芳野屋		森田仁三郎
花莚、疊表	吉岡		鈴木新治郎

第三二類　木地物細工、竹細工、石細工、製繩、製樽

繩製造	旭町	三六八	新谷米藏
看板製造	御幸町		千神喜一郎
棒、木管製造	旭町		小野順一
酒樽製造	新川町	四五九	大森文七
繩製造	西本町		谷本繩莚合資會社
木地物細工	新町		中野榮三
竹細工	若松町		難波政太郎
石細工	西本町		中村春藏
籠細工	御幸町	四六一	藤本豐松
繩製造	八王寺		佐々木今一
石細工	船倉町		水川哲雄

棒、木管、看板

第三三類　印刷、印判

印判彫刻　本町　石河遊龜夫
印刷業　戎町　カモヤ印刷所　五四〇　鳥越光邦
同　濱田町　六二四　大倉辰次郎
同　旭町　六六一　松尾昇
同　本町　愛文舍　二五五　伏見槌吉
印刷、文具、書籍　戎町　一〇七　杉原益吉

第三四類　左官材料、煉瓦、セメント、瓦

セメント、煉瓦、左官材料　土手町　淺原屋　一九　河原興平
同上兼種子　新川町　六〇六　鴨井八十治
瓦製造　鯛原町　高橋與吉

第三五類　肥料、薄荷、藺草

肥料　榮町　一三六　合資會社原岸商店
同　榮町　二二六　山邊博

同　薄荷、貿易業　同　六九　淺野合名會社倉敷支店
同　一二一　佐々木繁太郎

第三六類　請負業

葬儀、請負　砂越町　一五四　井上英二
ペンキ、ワニス、塗請負　日之出町　井上一男
土木建築請負　春日町　岩下德治
建築請負　八王寺　烏越佐次郎
土木請負、重量物運搬　東町　三〇四　岡本又三郎
建築請負　濱　龜山茂一
同　集金請負　同　龜山金三郎
葬儀請負　旭町　加藤英雄
土木建築請負　新阿知町　川上商會　六二五　川上吟太郎
建築請負　旭町　吉田愛二　二六八　吉田只一
濱田町

土木請負	向市場	米田市太郎	
測量製圖請負	砂越町	横田輝一	
建築請負	沖	高見堅次	
土木請負	日之出町	難波喜三郎	
建築請負	壽町	山室積治	
同	二反	八木高造	
同	唐戸	小林秀太郎	
土木建築請負	高砂町	小原英一	
建築請負	若松町	迫清三	
土木請負兼建築材料	砂越町	三宅正敏	
土木建築請負	若松町	水川宇一	
請負	阿知町	白神力吉	
建築請負兼青果物	新阿知町	森崎平造	
建築請負	向市場	妹尾片吉	

第三七類　銀行業

銀行業	阿知町	株式會社中備銀行支店	一六
同	榮町	株式會社岡山合同貯蓄銀行支店	二六三
同	本町	株式會社第一合同銀行支店	二〇
同	戎町	株式會社安田銀行支店	二一一
同	阿知町	株式會社山陽銀行支店	二二二
			二二三
			一五三

第三八類　質、金錢貸付業

質	阿知町	ハガネ屋	一四
同	榮町	井上直太郎	
同兼運動具	濱田町	大高孫次郎	
質	向市場	尾原金太郎	二二一
同	千歳町	加藤欣一	
		田中政太郎	